温泉

上諏訪にある温泉の名稱は、千野湯（溫度百二十五度）（小和田湯（溫度百四十四度）田宿湯（溫度百八十三度）土湯（溫度百八十五度）北小路湯（溫度百八十三度）精進湯（溫度百七十度）花湯（溫度百三十七度）蟲湯（溫度百五十二度）大脇湯（溫度百六十二度）片羽湯（溫度百二十二度）島崎湯（溫度百三十七度）協之湯（溫度百七十三度）松の湯（溫度百四十三度）等なり。

旅館

下諏訪にある溫泉の名稱は旦過湯（溫度百五十三度）綿の湯（溫度百十度）無名湯（溫度百十度）等にして此處溫泉湧出する處枚擧する能ず、各旅館の如きは皆館内に浴槽を設けて便を計れり、鐵鑛泉旅館は一回金二錢にて入湯し得るなり。

（旅館）上諏訪には牡丹屋、甘精軒、布半、諏訪ホテル、松川屋、常磐館、湖月館、吉田屋、豐田屋等あり、桔梗屋、龜屋、扇屋、港屋、信濃屋等あり。

此地は名勝舊蹟等にいと富める地なれば一々擧ぐるべからず今茲に其の大略を記せば左の如し。

諏訪湖

諏訪湖は一名鶴湖と稱す、東西一里十四町南北三十三町周圍四里二十二町にして其景恰も心臟形をなす、古來諏訪の八景として名著しき風景に富む、この地にして最趣味の多きは即ち此の湖なり三伏の熱に苦しむもの炎暑の巷を避けて此地に來るは則ち諏訪の納涼にあり船を浮べて遊ぶも又一興なり、湖畔を逍遙するも可なり、湖の四邊共に峯巒亂立し南方を望めば富士の高峯群嶺の上に屹立し風光明媚とや言はん眞に塵外の清趣あり、湖畔の勝地を雙眸中に收めんとせば船遊にしくはなし、湖畔には「湖月館」と云へる船宿兼料理店あり凡て案内をなすべし。

諏訪の氷滑

冬期の專有物なれども今茲に諏訪の氷滑を紹介せん、毎年十二月下旬に至れば此湖結氷して最も厚さは一尺四五寸薄きは五六寸に及びて「スケート」會年々行はるゝなり（此の時には汽車も割引券を出す）實に壯快なる且つ愉快なる體育運動なり、第一回諏訪湖スケート大會は去四十年十二月下旬に開催され各地競走運動を氷上に催し又は氷結の最厚き分を切りて門柱となし又は竈を作り種々煮たきする

と雖も毫も解氷するが如きことなき奇觀あり。

解氷の期は二月下旬若くは三月上旬なれば其期間約三ヶ月間なり。

スケート器は普通靴の底に附看せしむる具にして舶來品は七八圓以上の高價なればとても普及には便ならず、依て下駄の甲のみなるに齒に代へて滑走器を着けたるものを作て之をれ試みたるに大に結果宜しかりしかば今は此の輕便なる器具にて練習等をなして非常なる勢を以て行はるゝに至れり、初めは下諏訪に止まりしが次には上諏訪までも及ぼし現今は大概之を使用するもの多く其價も廉にして二十錢位なり一名「下駄スケート」と云ふ。

諏訪上社

諏訪上社　上諏訪にありて明治二十九年四月官幣中社に列せらる一宮諏訪大神と云ふ國內無雙の名神なり。

祭神別宮(宮川村大字小町屋)本宮(健御名方神)前宮(八阪刀賣神)

健御名神は大己貴命の子にして父と共に國土を經營し此地を退き永く國家を鎭護し給ふとあり。

○祭典は蛙狩、野山、御頭祭、御射山等を主とす今神事の大略を擧ぐれば左の如し。

一月一日蛙狩、一月十五日田遊、一月二十八日野出、四月十二日立座、四月十五日御柱祭、五月二日押立御狩、六月廿七日御狩御事、七月十日紀念祭、八月廿八日御射山祭、九月十五日相撲神事、十一月二十八日には立座等とす。

又祭典中最も特筆すべきは御柱祭とす、四丈八尺より五丈餘の丸木八本を伐り之を御柱と名づけ、初日二本は本社へ(內一本は最大なるもの)二本は前宮へ、翌日四本を兩社に建つ、此式は古代裝束の行列にて執行して決して他の地方にて見る能はざる祭典にして七年に一度寅申の歲、本宮より數里を隔てゝ御十屋嶽に登りて以上の丸木を伐り出すなり五月寅申の日祭事あり。

○寶物として其名著しきは次の如し。

寶　印　直徑一寸五分にして古物なり。
馴鹿角　重量三百目にして數百年前の古物なり。
神　鏡　直徑五寸三分にして青銅製なり僧空海の奉献なり。
根曲太刀　長二尺五寸巾一寸五分にして信州諏訪神社、上社法性大明神の文字の刻あり。

其他八阪鈴、寶鈴、鐙、籠、菱花鏡等あり。

あらたまる須波の祭りの御かり人しかもありけり神のちかひは　宗良親王

濁りなき神の心の清水かな　春秋庵

諏訪下社

諏訪下社　下諏訪東岡にあり、八阪刀賣命を祀る官幣中社なり、東にあるを秋宮西にあるを春宮とす。

○寶物として名あるは次の如し。

寶　印　平城天皇より下し給ひし銅印なり。
神　鏡　青銅製にして徑七寸一分なり。
古　鏡　眞鍮製にして徑八寸にして一千年以上の古物なり。
縄切丸太刀　長一尺四寸四分青江輔安の作にして佐々木高綱宇治川先登になりしを以て奉献せしものなり。

諏訪の湖や神のちきりのいかなれば秋さへ月の氷しくらむ。

乘馬の鼻冷し置く小草かな　乘　搓

高島城趾

町の西方字高島にありて面積僅かに一町を超ざる城趾なれども今尚ほ存す、天正十八年日根野織部正吉明の築し所なり、慶長六年日根野氏上州壬生城に移り諏訪頼重の伯父新次郎入道の子小太郎頼忠に高島城を復賜せらる、其後其子因幡守頼水の時三萬石の封を加へられて大政維新に至れり。

木曾路圖會に曰く高島城は三方湖水に圍み一方に入口あり縄手五町許り左右に

沼あり門前に橋ありて橋下の川は船の出入自由なり古歌に曰く「須波の海衣が崎に來て見れば富士の上漕くあまの釣舟」と是は弘法大師とも云傳へり。

千曲眞砂曰く高島の城大手先を入つて二の門の橋をことの橋となんいふ其橋の向へ富士の影湖水へ移る海上風景云はんかたなし其向なる崎を衣ケ崎ともこれも崎とも云へり。

慈雲寺

停車場より北へ十町にして開基を下社大祝信濃守金刺豐久開山を一山一寧國師とす、國師は元國臺州の人正安元年來朝し北條貞時に知られ當山を開きたり、境内廣濶にて伽藍又壯麗を極む。

地蔵寺

上諏訪の東南にあり愛宕山と稱す、本尊は延命地藏菩薩なり境内廣く且つ八景の勝ありて風景絶佳なり、堂の傍に庭園ありてうちに二條の瀑布あり靜閑幽雅にして上諏訪の一勝地たり。

温泉寺

登ること約二町にして堂あり結構朴素なり境内密樹蔚苔として樹木に諏訪氏歴代の墓ありて、鶯湖を脚下に望みて風色の幽邃なる自ら塵垢を洗ふに堪えたり。

手長神社

神のあと御かり申せ初からす　青魚

足長神社

祭神は手摩乳命にして諏訪湖を距る僅かに數町なる茶臼山の中央にありて神殿拜殿ありて中央に千餘年を經たる巨槻の樹あり樹木鬱蒼として境内幽雅なり。

唐澤

祭神は足長彦命なり、四賀村足長山に鎮座す萩を以て社宇の屋上を葺きたるより萩宮の稱あり。

八景

上諏訪町の東方一里許りにあり、景色の奇なるを以て其名高し、無數の樹木枝を交へ山水の風光明媚たる、碧流混々として直下數丈たり、湖邊の影湖面に倒映し洵に仙境を徜徉するの感あらしむ。

衣崎歸帆　棹さして不二を逃すや柳影　正阿

濱澤夜雨　雨くれて松風しろくなりにけり　挑蛭

高濱秋月　山冷や昔から見えて秋の月　曲川

戸川暮雪　湖のふたにもなるか暮に雪　雨角
岡屋晴風　白濱や秋の初風見えて吹く　等裁
小坂夕照　草のわく舞せて山にむく日かな　太老
文出落雁　簿水雁ふみわつた貌もせず　五三

其他愛宕山、地藏寺の絶景、天龍川口より諏訪湖眺望、大岩山絶壁、江音寺、有賀城趾、千鹿駝神社、八劔神社、正願寺、教念寺、阿彌陀寺、青塚、手塚城趾、尾掛松、梶原塚、天龍上人墓、柴宮八幡神社、出早雄神社、御射山神社、法華寺、小泉寺小坂の觀音雪の八ヶ岳の風景等は一日の爽遊に適す。

名産

諏訪の名産たる氷餅は寛永年間の頃に始まり輸出する處は甲斐、武藏、尾張、地方とす、氷豆腐は茅野、富士見、附近にて製造す輸出先は山梨縣を第一とす、又鋸も諏訪の鋸とて其名高し寒晒心太は殊に此地の名産なり弘元年中玉川村字穴山の人にて小林條右衛門と云ふ者其の製造を始め漸次今日に至れるなり、輸出先は南清地方及び香港英領印度又は歐米地方なり。

諏訪料理

皆な潑溂たる生魚なれば其味又格別なり鯉は「あらひ」鯉こく等鰻も又名物なり又此地の産なる「あめの魚」と稱する魚は味美にして海魚などの遠く及ばざるところなり、又蜆も名物の一として數へらる。

歸路

歸路は「上諏訪」下諏訪」より「茅野」「青柳」「富士見」「小淵澤」の停車場を經て「日野春」に至る此地は富士遠望の一として數へらる花水坂の風景最佳なり、次驛「韮崎」には弘法大師一夜の作と言傳ふ岩屋觀音あり「龍王」驛より「甲府」驛に至れば名勝舊蹟等最多くしてとても枚擧すること能はず、太田町公園、菖蒲の名所なる清見寺、櫻の名所なる華光院、本刎曹洞宗務鎮守なる太泉寺、武田信玄墓、甲斐奈神社、日本武尊行在の遺蹟酒折等あり、「石和」驛には聖武天皇大藏經を寄附せられたる大藏寺、「日下部」驛を經て「鹽山」驛には鹽山溫泉あり、菅田神社には神功皇后三韓征伐の折り御着用ありしといふ指無鎧あり、「初鹿野」驛には

天目山、田野古戦場あり、笹子より「大月」驛には富士遠望の一なる御阪嶺あり、「猿橋」驛には日本三名橋の一なる猿橋あり、「鳥澤」驛より「上野原」驛には疝癪温泉あり、「與瀬」驛より「淺川」驛には高尾山あり、「八王子」驛には蛍の名所なる子安明神あり、「豊田」驛より「日野」驛には百草園あり、「多摩川」「日向和田」「青梅」「小作」「羽村」「福生」「拜島」「立川」此附近は多摩川の風景畫かきたらんが如し、「國分寺」より「境」「吉祥寺」「荻窪」「中野」「大久保」等を經て新宿に着し同所より汽車の便にて飯田町へ着するか、又は新宿より東鐵にて歸着するもよし。

上諏訪。費用及支出概算

▲汽車賃

飯田町停車場より上諏訪停車場まで(片道)

三等貨金壹圓七拾參錢　二等貨金貳圓七拾五錢　一等貨金四圓六十五錢

○甲信廻遊列車に乘車すれば二、三等割引券通用期限十日間なり

(往復)三等貨金參圓六拾四錢、二等貨七拾五錢なり。

▲上諏訪町

▲牡丹屋(電。長、十三番)

○宿泊料

下等金六拾錢より金壹圓貳拾錢まで　其他特別種々あり、

○畫食料

金貳拾五錢以上金四拾錢まで

▲同　布　半(電。長、三〇番)

○宿泊料

上等金壹圓　中等金八拾錢　下等金六拾錢

○畫食料

上等金四拾錢　中等金參拾錢　下等金貳拾五錢

其他旅館、甘精軒、諏訪ホテル、松川屋等も價廉なり、

淺間　笹の湯＝目の湯＝御殿の湯＝桃の湯＝山邊溫泉

集合地　飯田町停車場　　**集合時間**　午前七時

△午前七時五十五分（長野行）にて飯田町停車場を發し「牛込」「市ケ谷」「四谷」「信濃町」「新宿」「大久保」「中野」「荻窪」「吉祥寺」「境」「國分寺」「立川」「日野」「豐田」「八王子」「淺川」「與瀨」「上野原」「鳥澤」「猿橋」「大月」「笹子」「初鹿野」「鹽山」「日下野」「石和」「甲府」「龍王」「韮崎」「日野春」「小淵澤」「富士見」「青柳」「茅野」「上諏訪」「下諏訪」「岡谷」「辰野」「小野」「鹽尻」「村井」の各停車場を經て午後六時三十五分「松本」停車場に着す（次の列車は前十時四十分發にて後十時十二分着す）（一五二哩四　十時四十分）。又は上野停車場より乘車すれば中仙道行きにて「高崎」停車場にて信越線に乘換へ「磯部」「横川」「輕井澤」「小諸」「上田」「屋代」等の各停車場を經て篠ノ井停車場に着す。

淺間溫泉

松本停車場より僅かに三十餘町にて本郷村淺間にあり、道路平坦にて馬車人車の便あり、天慶二年犬養氏の發見にして古は犬養の御湯と稱す、土地高燥にて海面より高きこと二千尺に及ぶ、此地は東南北の三方は本郷山、犬養山の山脈相連り西方は一面の沃野にして風景殊に絶佳なり、泉質は單純泉にして無色透明なれば村民は朝夕炊事に此溫泉を用ひ又飲料となす、此地は避暑及湯治に適すれば夏日は殊に來遊する者多くして實に長野縣下第一の溫泉場なりとす。

此地は溫泉湧出量最も豐富にして其數三十有餘あり、皆旅館内の湯なり次にその名を擧ぐ。

笹の湯。　臼の湯。　菊の湯。　井筒の湯。　目の湯。　桃の湯。　富士の湯。　常磐の湯。　芳の湯。　ひなの湯。　富貴の湯。　竹の湯。　和氣の湯。　小柳の湯

梅の湯。琵琶湯。千代の湯。おもとの湯。うづらの湯。蝶の湯。玉の湯
櫻の湯。鹿の湯。元竹の湯。龜の湯。音羽の湯。桑の湯。錦の湯。松の湯。
椿の湯。御座の湯。北大湯。尾上の湯。きづの湯。壽の湯。翁の湯。

分析表

御殿の湯等

一硫酸ナトリユム	〇、二一三九	一硫酸カルシユム	〇、一三五八
一コロールナトリユーム	〇、〇四七五	一硅酸	〇、〇三七八
一硫酸アリユーム	〇、〇二〇八	一酸化鐵礬土	〇、〇一二〇
一固形分合計	〇、四五三九		

旅館

（旅館）西川蒸風樓「石川佐源次」一名筐の湯と稱す、淺間溫泉旅館中第一に指を屈するは當館とす、三層樓にして松本平西南一帶の平野一眸の中にありて、遠くは高山峨々として翠を空に抹み眞に一幅の活畫といふべし。

當館三層樓は高貴の御宿泊せらるゝと多し、過る年閑院宮殿下御宿泊遊されしより其名頓に高まれり。

「中野昇一」目の湯と稱す、これ又貴顯紳士の宿泊せらるゝ事多し、この家は炊事場等の設備完全しをれば一家族を伴ひて來浴する人々には便宜少からず。

「降旗庄吉」御殿湯と稱す、最も高地にありて古昔松本城主の御用溫泉なりしを以て此の名あり、其他矢口太七（桃の湯）仁科壽一郎（ときわ湯）三浦せい（小柳の湯）等また名あり。

山邊溫泉

山邊溫泉

松本市より東一里餘なり、往昔は東間の御湯、又白糸の湯とも稱す、泉質は硫黄及加爾基性にて、花柳病婁麻質斯等に効あり、此溫泉は古來より其名高き湯治場なれとも未だ都人士に其名を知られざるは遺憾なりとす。

又山邊溫泉より西北三丁御殿山の山麓に「オボケ」鑛泉あり腫物等に効あり。

名勝舊蹟

松本市、天主閣、天照皇太神宮、岡田神社、賓生の松、女鳥羽の瀧、玄向寺、國司塚千鹿頭山のフシ保福寺上重玉の松、中伏寺の觀世音、春澤寺、雄鳥羽の瀧等あり。

又た淺間八景の勝あり、これに二樣あり、一は「城山の晩霞」「春宮の殘鶯」「山口溪綠陰」「女鳥羽瀧納涼」「茶臼山秋月」「飯沼淵紅葉」「乘鞍岳暮雪」「御殿山松籟」を以て、しか稱するあり、或は又「春宮鶯」「城山の櫻」「女鳥羽の瀧」「山田溪の泉」「水隈の月」「砂引の紅葉」「淺間橋の河鹿」「乘鞍の雪」をもしか稱するなり。

歸路

歸路は村井、鹽尻の兩驛を經て小野の矢彦神社、辰野の諏訪神社岡谷を經て上諏訪の溫泉、其より「茅野」「富士見」「小澤淵」「日野春」「韮崎」「龍王」を經て、甲府の數多名勝舊蹟を廻覽し、石和日下部より鹽山湯泉、初鹿野より大月、猿橋、上野原、淺川等の名勝舊蹟、日野、多摩川、立川邊の風景の明媚なるを廻覽して、國分寺、境、吉祥寺、荻窪、附近の幽邃なる地を經て新宿に歸着す、又は松本より田澤明科、西條麻績、姨捨、稻荷山、篠の井の各驛を經て長野より信越線に乘換へ輕井澤高崎を經て中仙道より上野へ歸着するもよし

淺間。費用及支出概算

▲汽車賃

飯田町停車場より松本停車場まで(片道)

三等賃金貳圓參錢　二等賃金參圓貳拾錢　一等賃金五圓四拾錢

上野停車場より篠ノ井停車場まで(片道)

三等賃金貳圓七錢　二等賃金參圓貳拾六錢　一等賃金五圓五拾錢

▲馬車人車賃

淺間溫泉まで　金八錢位(馬車)　同貳拾錢以內(人車)

▲西石川「薫風樓」(笹ノ湯)

○宿泊料

上等金壹圓貳拾錢　中等金八拾五錢　下等金七拾錢

○壹食料

上等金五拾錢　中等金參拾五錢　下等金貳拾五錢

○貸室料　一日金拾五錢　　廐具料　一夜金拾貳錢

▲降旗庄吉（御殿の湯）

○宿泊料

上等金七拾五錢　中等金五拾錢　下等三十五錢

○畫食料

上等金三十錢　中等金二十錢　下等金十五錢

淺蟲　椿の湯＝大湯＝大湧の湯＝五郎兵衛湯＝柳の湯＝目の湯＝鶴の湯

集合地　上野停車場　　**集合時間**　午後五時

午後六時（青森行）にて上野停車場を發し「日暮里」「田端」「王子」「赤羽」「浦和」「大宮」「久喜」「古河」「小山」「宇都宮」「西那須野」「東那須野」「黑磯」「黑田原」「白河」「須賀川」「郡山」「二本松」「福島」「長岡」「白石」「大河原」「槻木」「岩沼」「仙臺」「松島」「小牛田」「一の關」「平泉」「水澤」「黑澤尻」「花卷」「盛岡」「尻內」「小港」等の各停車場を經て翌午後四時四十七分「淺蟲」停車場に着す（又た後十二時五十分發なれば翌前九時八分着す）（四四七哩四　二十四時間四十七分）

奥州東津輕郡野內村大字淺蟲にあり、停車場より數歩にして浴舍あり、此溫泉は鹽類泉にして其源を八ヶ所に分ち椿溫泉、大湯、大湧の湯、五郎兵衛湯、柳の湯、目の湯、鶴の湯、と云ふ、地は丘陵に據り海岸に接し東西南の三方は山を負

ひ北方には湯の島、裸島の諸島等其前面に散歩し掉歌款乃舟遊垂釣の便ありて、島影浮動翠波を漂はし風光の明媚たる愛すべし。

抑々此溫泉の起因たるや、昔時圓光大師東國を巡錫して此地に來りしとき一頭の傷を負へたる牝鹿溫泉に浴し平癒したるを見て初めて靈泉たるを知り、浴場を此地に開設したるが是れ其の濫觴なり、然れども里民は恐れて之れに浴せず、唯だ麻を此の溫泉中に蒸したるを以て誰ふとなく、麻蒸、の溫泉と呼ぶに至れるなり。

旅館　歸路沿道溫泉

（旅館）淺蟲館其他八九軒あり。

歸路沿道附近にも溫泉多し、されば今茲に重なる者を擧ぐべし、「恐山溫泉」「野邊地馬門鑛泉」「郡內鑛泉」「湯田溫泉」「瀨月鑛泉」「水山溫泉」「鬼首溫泉」「溫泉村八湯」「湯川溫泉」「臺森溫泉」「定義溫泉」「作並溫泉」「峨々溫泉」「靑根溫泉」「磐梯溫泉」「白河湯本溫泉「二股溫泉」「熱海溫泉」「深堀溫泉」「土陽溫泉」「徵溫湯溫泉」「高湯溫泉」「湯野村溫泉」「鎌先溫泉」「小原溫泉」「甲子溫泉」「湯岐溫泉」等あり奥羽本線には「五色溫泉」「小野川溫泉」「赤湯溫泉」「鶴脇溫泉」「碇ヶ關湯泉」等あり。

淺虫。費用及支出概算

▲汽車賃

上野停車場より淺蟲停車場まで（片道）

三等貨金四圓參拾五錢　二等貨金六圓七拾貳錢　一等貨金拾壹圓貳拾八錢

○宿泊料（淺蟲館）

上等金貳圓貳拾錢　中等金九拾錢　下等金七拾錢

○盡食料

上等金六拾錢　中等金四拾五錢　下等金參拾五錢

○貸室料（一週間）

（上）金壹圓五拾五錢　（中）金壹圓參拾錢　（下）金壹圓

順路

北條

八幡神社＝鏡ヶ浦＝舘山＝舘山公園＝鷹の島＝沖の島＝那古＝舟形＝延明寺＝龍伏松＝鉈切大刀切神社＝洲の崎神社＝安房神社＝

集合地　東京靈岸島新船松町定繫場

集合時間　午前五時

△午前六時十分一番船東京灣汽船定繫場より出航し「港」「金谷」「保田」「勝山」「富浦」「船形」「那古」等に寄港し午後十二時頃北條汽船定繫場に着す（六時間餘

△一番船だけは惠比壽丸、鶴丸とにて隔日に出航す

△發船時間は前六時十分、（一番船）前七時、同八時、正午、後十時の五回とす。

北條町

北條町

安房第一の市街にして高井村、八幡村、港村、長須賀、上野原等を合して北條町といふ、舘山灣に瀕し南は汐入川を隔てゝ舘山町に接し、北は港川を挾んで那古町に隣す、此地は海水浴場として其名遠近に聞え且名所舊蹟等に富めるを以て避暑來遊する者最多し。

八幡神社

北條町の西北八幡村字宮谷にありて安房第二の大社なり、應神天皇仲哀天皇神功皇后を合祀す、社傳に曰く往古豐前國宇佐太神を勸請して社殿を國府に建つ、養老元年紀伴人此地に勸請し永正五年里見義通再建す、示後世々神領を付し社殿を修理す德川氏之に仍りて朱印百七十一石を賜ふ、明治六年鄕社に列らる、例年九月十四、十五の兩日を以て安房郡安房神社外八社、朝夷郡、莫越山神社外九社の神體を本社に會し海濱にて禊事を修す、其祭禮の盛大なること安房第一の大祭たり。

鏡ヶ浦

北條、舘山、那古、舟形の前面一帶の灣口にして俗稱舘山灣といふ、南北七里餘東西五里あり、北は大武岬南は洲の崎を以て灣口を扼す、海濱靜かにして恰も鏡の如し仍て其名を得るといふ、風光絶佳にして遠くは豆相の諸山相横りて連亘し茫乎として雲烟模糊の間に出沒し、近くは鷹の島、沖の島の風景指顧の間に迫り

旅館

浴岸の白砂青松の間に海水浴場數多ありて水清く波穏かにしてしかも遠淺なるを以て小童の浴場に最も適切なり。

（旅館）「吉野荘」「木村屋」「吉田屋」「安房屋」等にして（下宿業）を兼ねるものは「鏡浦亭」「小松屋」「大黒屋」「濱田屋」「江戸屋」「小島」等にして（下宿營業）とせるものは「片山」「鈴木屋」等あり。

（西洋料理店）は「林屋」、（壽司料理店）は「富士橋」等あり（遊船貸船業）としては「小笠原」あり。

舘山町

汐入川を隔てゝ北條町と連續す、舘山灣の東南灣にありて北條町とはもと一邑の別坊のみ、市の西南には公園あり、海水浴場は沿岸各所にあり、水清淨にして波濤穏かなり、且つ鷹の島、沖の島の眺望頗る美なるを以て來遊者踵を接す。

舘山公園

字北下臺にありて市の西南海岸の一小丘なり、園中南方に大日岩あり、鯨の頭骨化石せる高さ丈余の珍品を建つ、東には琴平神社あり、鳶岩には大山侯の筆になれる日露戰役紀念碑あり、又た故關澤明清氏の石碑あり、氏が遠洋漁業を企圖せしとき此處に船隊を定繫せしを以て紀念として建設すといふ、園中に鏡南亭あり憩ふるに適す、鷹の島沖の島を眺望し又た烟波漾々たる眞帆片帆の風景を望み、那古舟形の漁家點々たるを白砂青松の裡に隱見するなど風色頗る美なり。

鷹の島沖の島

舘山灣の西南に並列す、東にあるは鷹の島西にあるは沖の島といふ、共に周曲六七町に過ぎず、兩島の距離十町許にして樹木鬱蒼として綠翠滴るか如し、鷹の島には辨財天あり砲臺跡あり、一茶亭ありて生洲を設け遊覽者をして隨意釣魚を屠して味はしむ、八幡、洲の崎の青松白砂遠く連りて、海波汀を打ち不二の靈峯は雪白く雲霧の表に聳え、島上雜樹生茂りて天然の風致甚だ愛すべし此地に遊ぶ者は一度は杖を曳くべきなり。

旅館　（旅館）旅館兼料理店は「松岡樓」（庄司彌市）、下宿營業は「玉泉館」（西山清吉）あり。

那古町　北條より一里、千手院那古寺あり、境内には有名なる觀世音あり、風景佳なり、海水浴場の設けもあり、婦女小童にも適す（委しくは次の那古を見よ）

旅館　（旅館）「山月樓」（山田屋）、「觀音下」長井、「加美屋」等あり。

舟形町　那古町より十二町、舟形觀世音は舟形堂山の中腹、巨岩の上にありて十一面觀世音を祀る、此地も海水浴場に適す、眺望は那古に勝れり。

旅館　（旅館）「菫風樓」、（料理店）「島德」、「茂八」、「松本樓」等あり。

其他此地には名所舊蹟の名あるもの多ければ今茲に大略を擧げて遊覽の便に供せんとす。

延明寺　北條町より北へ一里十三町なり國分村字本綴にありて長谷山と號す、里見氏累代の香火院にして墓なほ存す、朱印壹十七石を給せられし寺なり、境内廣濶にして建築古雅にして規模稍大なり、此地に遊ぶ者は一度は杖を曳くべし（人力車の便あり）。

龍伏松　館山町より一里廿町なり、西岬村鹽見の上濱の觀音前にあり、巨幹大枝にして恰も龍の臥すが如し、高さ丈余に滿たざれども方十數間に亘り頗る偉觀なり、俗稱「鹽見松」といふ此處に龍松亭といふ旅館あり、那古、舟形、館山より遊覽の便あり。

鹽見より十七八町にして字濱田にあり、鉈切神社は壯麗なる社にして、大刀切神社は幽邃なる岩窟中にありて、深さ數十尺にあり、社寶には長さ二間余の木を穿ち造りたる船あり太古の遺物として好古家の參考品なり。

鉈切大刀切神社

洲の崎神社　御手洗山に鎮座す神武天皇御宇の創建なり、大玉命の妃、天比理拜命を祀る、「安房の宮」と稱す、昔源頼朝信仰淺からず、治承年間參拜願書を納めたりといふ、此地右の方、館山灣大武岬と對峙し、又た海上七里を隔てゝ相州三浦三崎と對す、東京灣の外門にして眺望快濶絶佳なり。

安房神社　館山町より三里十町なり、官幣大社にして天太玉命を祀る、神武天皇元年の創

建にして境内老樹鬱蒼たり、神殿拜殿の構造は創建時代の者なるを以て徒らに人目を眩すものとは異なり、瀟洒高潔自ら神威の儼なるを覺えしむ。

其他館野村國分寺、稻村城址、豐房村小綱寺、長尾村小鷹神社、豐田村莫越山神社、丸村石堂寺等あり。

其他の海水浴場としては「豐津村海岸」「長尾村富崎村海岸」「根本海岸」「大賀の鼻海岸」等あり。

歸りは「館山」「北條」より乘船するとも又は「那古」「舟形」より乘船して東京京橋區靈岸島新船松町汽船定繫所に着するもよし。

北條。費用及支出概算

▲汽船賃

（賃金は船により多少差違はあるものとす東京館山間一番船には二等室の設けあり）

▲舟形、那古、北條、館山まで

○一番船、（往路）三等賃金八十五錢（往路）二等賃金一圓五十錢

○二番船、三番船、四番船、（往路）三等賃金六十五錢

○五番船、（往路）三等賃金七十五錢　外に通行稅金貳錢、解賃等あり

一番船は隔日に惠比壽丸、鶴丸出帆し二、三、四、五番船は其都度變更して一定せず

▲吉野庵（北條）

○宿泊料

上等金一圓　中等金七十五錢より金八十錢まで　並等金六十五錢

○晝食料

金五十錢より金三十五錢まで

▲木村屋房吉（北條）

上等金一圓　並等金三十五錢

○晝食料

上等金五十錢より金三十五錢まで

○下宿料

（一ヶ月）上等金十五圓より金二十四まで

▲吉田屋勝五郎（北條）
上等金一圓五十錢　中等金八十五錢　並等金六十五錢

○昼食料
金三十錢より金四十錢以上

▲安房屋（北條、海岸通り）

○宿泊料
金五十錢　（獻立）「朝」玉子、煮肴、おわん、汁物　「夜」さしみ、鹽やき、汁物、猪口

○昼食料
金二十五錢　（獻立）さしみ、すの物、茶わん、猪口

▲鏡浦亭（北條）
上等金八十錢　中等金六十五錢　並等金五十錢

○昼食料
上等三十五錢　中等金三十錢　並等金二十五錢

○下宿料
（一ヶ月）上等金二十一圓　中等金十八圓　下等金十五圓

▲江戸屋（北條、八幡）
並等金五十錢より

○昼食料
並等金二十錢より　金四五十錢

○下宿料
（一ヶ月）金十五圓内外

▲鏡ヶ浦遊舟賃（舘山公園）島田新一郎

舘山公園より鷹の島まで往復	五人以上十人位	一人金	六錢位
同　沖の島まで往復	同	一人金	十二錢位
同　鹽見まで往復	同	一人金	二十錢位
同　那古まで往復	同	一人金	二十錢位
同　舟形まで往復	同	一人金	三十錢位

（鷹の島立寄少々高し）
（鷹の島沖の島立寄少々高し）
（那古立寄り少々高し）

那古、舟形、鹽見までは船頭一日雇上る方個安し。

順路

那古

舟形海濱＝舟形觀音＝那古海濱＝那古觀音

集合地　東京靈岸島新船松町汽船定繫場　**集合時間**　午前六時半

▲午前八時東京靈岸島汽船定繫場を發し「品川」「金谷」「保田」「勝山」「富浦」等を經て午後三時舟形汽船定繫場に着す（猶ほ委しきは北條の部を參照すべし）

舟形

舟形

安房國安房郡舟形は一漁村なれども、江戸旗本平岡丹波守道弘の文久年間若年寄となり、遂に萬石の大名に列せらるや、此所に陣を建てたる所なり、此地形狀は舟を覆したる形に似たるを以て其名あり、右に雀島を見て左に多田良村を臨みて、斷岸刪成たり。

舟形觀音

舟形觀音

舟形山普門内院大福寺と號し、仁明天皇の御宇慈興大師の創立にして本尊は十一面觀世音にして行基僧正の石面に彫刻したるものなり、右に雀島左に多田良村を望みて斷岸削成老松古杉の樹間にあり、境域千坪余眺望最も絶佳壯麗にして詩人歌人は一遊を試みて可なり。

旅館

（旅館）　此地には「薫風樓」及び「島徳」等あり。

那古

那古町

舟形町より僅かにして（十數町）那古町に達す、安房郡那古町は大武岬の東南にありて海水浴場として其名高く、旅館料理店あり魚類の清鮮なるを供す、土地靜かにして都人士の來て暑を避くる者又多し。

那古觀音

那古觀音

補陀洛山普門坊千手院那古寺と號す、行基僧正の開基にして元正天皇の御宇養老元年の創建にして安房國内五大寺の一なり、建久年間源頼朝祈願成就の故を以て本堂三層樓六角堂二王門等を建立す、境内廣く二千六百五十余坪、西より登るを男坂といひて斷岸千丈にして宛も切り落したるが如くなれど、東より登るを女坂といひて左程、けはしき山には非ず、此女坂を降れば平地に那古寺あり、猶ほ石階數十級を登れば觀世音あり、本堂は八間四面にして構造は東京淺草觀音に似て唯だ規模を小にしたるのみなり、堂内には幾多の扁額あり内最も古色掬すべきあり曰く「ふたらくよよそにはあらじ那古寺岸うつ浪を見るにつけても」といふ額あり、彫刻の精密なる一見人をして驚歎せしむ、本尊の千手觀音は坂東卅三番の最終札所なり、毎年六月十七十八日の兩日及び七月八日には御會式にして參詣者萬を以て數ふるほどにて賽者遠近より麕集す、寺前には掛茶屋あり、眺望最美にして館山灣を眼下に臨み、北條柏崎州の崎に至るまで一眸にありて風光明媚なり。

回國雜記に曰く那古の觀音に詣でぬかつき終りて夕べの海面をながめやるに寺僧出で來る、あれ見給え「入日を洗ふ沖津白浪」と讀めるは此景なりといへり、

さて東遊記に那古寺の觀音の海岸の變遷を述べたり、曰く那古寺、舞台眺望の時、近所の老人吾傍に來り四方山の物語をなし、さていふやう某幼き時毎日此舞台に來り遊びしに其の頃は此舞台の下まで海にて波打よするを小舟など行かよひて面白かりしが、いつしか此の如く陸となり濱になり松とも生ひて大に景色を變ぜり見玉へ海邊十町許りも隔りぬ云々。

旅館

（旅館）　此地にては「山田屋」、「松田屋」、「大和屋」、「中松屋」、「田村屋」、「鈴木屋」「疊屋」等あり。

歸路

歸りは那古より汽船にて午前八時半發船し（舟形よりは同四十分發）「富浦」「勝

山」「保田」「金谷」等を經て午後二時十八分東京靈岸島汽船定繫場に着す。

次の發船は午前八時四十分、九時二十五分、九時三十分、午後三時との四回の發船にて約六時間にて靈岸島汽船定繫場に着す。

那古。費用及支出概算

▲汽船賃（賃金は船によりて多少の差違はあるものなり）

東京靈岸島より「舟形」「那古」「北條」「館山」まで　（三番船）（往路）賃金六十五錢

東京靈岸島より館山間（一番船には二等室の設あり）（一番船）（往路）賃金八十五錢

（館山、北條、那古、舟形、富浦）間、金十七錢　（勝山、保田、金谷、港）間、金二十四錢

（館山、北條、那古、舟形、富浦、勝山、保田、金谷）間、金二十九錢

▲那古（長井）

○宿泊料

上等金七十錢　中等金五十錢　下等金四十五錢

○畫食料

上等金二十五錢　中等金二十錢　下等金十八錢

○下宿料（一ヶ月）

上等金三十四　中等金十五圓　下等金十三圓五十錢

○舟形（薫風樓）

宿泊料　畫食略　那古と同じ

下宿料は一ヶ月　上等金十八圓　中等金十五圓　下等金十二圓

▲那古（山田屋）

○宿泊料

一等金一圓　二等金七十五錢　三等金五十錢

○畫食料

一等金七十五錢　二等金四十錢　三等金二十五錢

○貸席料

一等金一圓　二等金五十錢　三等金二十錢

一の宮 一の宮海濱＝玉前神社＝高藤山＝藻原寺

集合地 兩國停車場　**集合時間** 午前六時半

△午前八時（銚子行）にて「兩國」停車場を發し「本所」「龜戸」「平井」「小岩」「市川」「中山」「船橋」「津田沼」「稲毛」等の各停車場を經て午前九時四十分「千葉」停車場に着し同十一分房總鐵道に乘換「千葉」を發し「蘇我」「野田」「土氣」「大綱」「本納」「茂原」「岩沼」等の各停車場を經て午前十時三分「一の宮」停車場に着す。次の發車は前九時十五分發にて後十二時一分着す（四八哩一七　三時間五分）

△毎年七月上旬より九月下旬まで毎土曜日曜大祭日祝日前日及當日に限り割引往復券を發賣す。

一の宮

上總國長生郡にありて一の宮川の南岸に位し、もと加納氏一萬三千石の治所にして寛政八年遠江守公周の時に起れり、加納氏は紀藩より江戸旗本に移り享保の年大名に列せられ其れより其字名を發せしなり。

一の宮は九十九里濱に臨み海浪靜かにして風景到る所美なり、此地は明治三十二年開設太平洋唯一の海水浴場にして、氣候清爽、魚介新鮮、賄料低廉なるを以て夏時來遊する者多し。

旅館

（旅館）「高原館」「青松館」「一の宮館」「松濤亭」「長谷川」「一の宮倶樂部」等あり。

玉前神社

一の宮本郷にありて一宮明神是れなり、今は國幣中社にして「玉依比賣命」を祭る里人曰く「彦火々出見尊」の皇兄「火闌降命」の釣を借り海濱に釣し釣を失ふ、遂に新釣を作つて返すれども皇兄舊釣を返却せよとて聞かず、尊或日海濱を逍遙して老翁に遇ひ、敎を受けて海神の宮に到り、海神の長女豐玉媛を以て妻となさしむ、同棲すること三年、失ふところの釣及び「潮滿」「潮涸」の二珠を得て歸る、

一の宮

豐媛尊に語つて曰く已に懷姙せり、風濤怒吼の日に岸に行かん、願くは產舍を設けられよと其後媛は岸の產舍に來りたりといふ云々。

本社は毎年八月三日大祭にして神輿の渡御するときは必ず東風吹くといふ土人稱して迎神風といふ。

一の宮本郷にあり、上總介平廣常の城址なり、西南へ凡一里余にして直立三十余丈嶮嶺なり、此地は觀月の地として名高く態々來觀する者多し。

高藤山

一の宮本郷にあり土崎山と號す、行基僧正が開基にして本尊の阿彌陀佛は行基僧正の作なり。

觀明寺

其他一の宮河口の兩岸の風景、河畔別莊地の風景、一の宮河口の遠望、一の宮川の鯉漁、一の宮城址、城山の櫻、平廣常城址、三社神社等あり。

翌日は一の宮より歸路に向ふ午前九時五分「一の宮」停車場を發し「岩沼」停車場を經て同二十一分茂原停車場に着す。（十六分間約七哩）

歸路

停車場より十町なり藻原寺は日蓮宗本山の一にして俗に東身延山と號し藻原山藻原寺と稱す、境内最廣く四萬百三十八坪ありて、山門あり桁行八間梁間三間棟高四間半にして仁王尊を安置す祖師堂は桁行九間梁間八間にして壯麗なる鎮守堂奥院太鼓樓内陣鐘樓客殿寶殿書院廻廊等ありて本堂は元祿十年日俊上人の再建にして桁行十四間余梁間十二間棟高六間軒高十間あり殿堂壯麗にして金色燦然たり。

藻原寺

其他「八幡神社」「鷲山神社」「二宮神社」及茂原の「提灯祭」とて其名高し。

同日午後二時十二分の汽車にて「茂原」停車場を發し「本納」「大網」「土氣」「野田」「蘇我」の各停車場を經て千葉に着、同四時二分「兩國」停車場に着す。

沿道茂原より「本納」を經て「大網」に至れば「東金」線の分岐點にして「東金」には有名なる東金御殿、布田の藥師、本漸寺願成就寺の垂枝櫻等あり「大網」には本國寺山邊赤人塚、雄蛇瀑あり「土氣」には南玉瀑「蘇我」には大巖寺本行寺等ありて「千葉」に來れば名勝舊蹟等多し「稻毛」には袖ヶ浦海水浴あり、「幕張」には青木昆

陽芋神社あり、「船橋」には大神宮慈雲寺等あり、「中山」には法華經寺「市川」には真間弘法寺、國府台等あり「小岩」には善養寺、「平井」には聖天宮等ありて見るべきもの數多あれば下車して遊覽するもよし。

一の宮。費用及支出概算

▲汽車賃

兩國停車場より一の宮停車場まで(片道)

三等貸金八十二錢　二等貸金一圓二十五錢　一等貸金二圓八錢

▲一の宮「高原館」

○宿泊料　一等金八十五錢　二等金五十五錢　三等金四十五錢

○賄食料　一等金三十五錢　二等金二十八錢　三等金二十二錢

▲一の宮倶樂部

○宿泊料　一等金八十錢　二等金六十五錢　三等金五十錢

○賄食料　一等金二十五錢以上金三十五錢より金五十錢まで

大原

八幡岬＝小濱岬＝鳶岬＝勝浦

集合地　兩國停車場　**集合時間**　午前五時

△午前五時二十五分(銚子行大原乘換)にて兩國停車場を發し「龜戸」「中山」「船橋」「稲毛」等の各停車場を經て午前六時五十四分「千葉」停車場に着す、同所にて房總線に乘換へ同七時六分「千葉」を發し「本千葉」「野田」「土氣」「大網」「本納」「茂原」「岩沼」「一の宮」「大東」「長者町」「三門」等の各停車場を經て午前九時五十分大原停車場に着す(次の發車は前八時にて同十一時五分着す)(五七哩一五　四時間二十五分)

△毎年七月上旬より九月下旬まで毎土曜日曜大祭祝日の前日及當日に限り割引券を發賣す。

大原

上總夷隅郡にあり停車場より八町にして海水浴場に着す、浴場は白沙青松の間にありて、三面皆海にして南面は茫々たる際涯なき太平洋なり、南方には八幡山ありて海水浴場として其名著し。

八幡岬

八幡岬

大原より十七八町なり海水浴場としては最も名高き所にして中魚落(いなや)村小濱岬にして岬上八幡の祠あるを以て名つくといふ又た形狀鳶に似たるを以て鳶崎とも稱し、海上に突出して怒濤脚下に狂ふ、矮樹叢生最端に至れば波濤渺茫巖嶕に激搖する狀、頗る奇觀なり、小濱の海水浴は太平洋に面し波も靜かにして海水浴をなすには最愉快なる處なり、然るに此の好海水浴場を知る人少きは遺憾とする次第なり。

旅館

（旅館）八幡岬、帆萬千(はばち)館、「大原」及「鹽田浦」の旅館には「松濤館」「翠松館」「大原館」「梅の家」「浪華館」「竹樓」等あり。

八幡岬「帆萬千館」は避暑には適切なる旅館なり、又舊曆十五夜の月を賞せんとすれば又と得難き風景なり。

此地附近には「三門」「長者町」「大東」等の海水浴場ありて大東には大東岬鷄島あり、長者町には坂東三十三番の札所清水觀世音ありて、大原より一の宮附近までは何れにいくとも海水浴場ならざるはなし、又は八幡岬より「勝浦」に至るも面白し、其道程は凡四里にして「中魚落」「長須賀」「雜式」「金光」「浪花」「久保」等を經て「御宿」に至る、此所は宿屋等は少なし然し民家に賴みて海水浴をなさば安直にして至極妙ならん、「御宿」より「勝浦」まで東北へ二里の間は海岸にして道路最も狹く歩を誤らば千丈の底なり、大原より馬車の便ありて別道を日々往復す、人力車の便ありて朝七時頃に發すれば前十時頃には勝浦に着するなり。

勝浦

勝浦

夷隅郡中屈指の町にして繁華なり、勝浦の濱は太平洋に面し、風光最美にして灣より西方を眺めば勝浦の市街一幅の畫の如し。

旅館

(旅館)勝浦館、當館は海面より五十尺の高地にありて二十有余の座敷は太平洋に臨み座ながら房州半島を遠望す其他「十文字屋」「松野屋」「幸前屋」等あり。

歸路

勝浦より東京灣汽船會社の船にて午前九時に發し「松部」「興津」「小港」「天津」「鴨川」へ寄港して正午十二時には東京靈岸島汽船定繫場に着す。

割引券を所持すれば大原へ歸りて同所よりもときし汽車の便にて歸着すべし。

大原。費用及支出概算

▲汽車賃

兩國停車場より大原停車場まで(片道)

三等賃金九十五錢　二等賃金一圓五十錢　一等賃金二圓五十三錢

往復割引券三等賃金一圓五十五錢

▲汽船賃

勝浦より東京靈岸島汽船定繫場まで

往路賃金八十二錢　勝浦より天津まで往路賃金三十二錢　勝浦より小港まで往路賃金二十七錢

▲「八幡岬」帆萬千館

○宿泊料

一等金一圓　二等金八十錢　三等金五十五錢

○晝食料

一等金四十錢　二等金三十錢　三等金二十五錢

▲「大原」竹樓

一等金一圓　二等金八十錢　三等金六十錢

○晝食料

一等金四十錢　二等金三十五錢　三等金二十八錢

勝浦櫻幸前櫻等は略同じ

銚子

銚子海濱＝川口明神＝犬吠岬

集合地　兩國停車場　**集合時間**　午前七時

△午前八峠（成田大原銚子行）にて兩國停車場を發し「本所」「龜戸」「市川」「船橋」「津田沼」「稻毛」等の各停車場を經て午前九時四分「千葉」停車場に着し、同驛を同九分に發し「四街道」驛を經て同三十二分「佐倉」停車場に着し、同驛を同四十二分に發し「八街」「日向」「成東」「松尾」「横芝」「八日市場」「干潟」「旭町」「飯岡」「猿田」「松岸」の各停車場を經て午前十一時三十五分「銚子」停車場に着す、「一番列車は前五時二十五分發同十時三十分着す」、（次の列車は前十時十分發にて午後三時十六分に着す、又は夜行は後四時四十分發にて後八時十六分着す）（七二哩七　三時間三十五分）

銚子

下總國海上郡犬吠岬の北側にありて利根川に臨めり、「本銚子」「西銚子」「銚子」の三區を合したる大邑なり、古來海水浴場として其名著し、世に謂ふ銚子の浦とは其地勢の酒器の銚子に似て浦の入口の海底悉く大石聳へ立てり、船路石の間僅かにして二十間ばかりにして其餘は嶮巖のみ、因て口狹く中廣きを以て銚子の名の起りし所以なり。

銚子港沿革史に曰く銚子の名稱は港口の形狀より出てたるものなれとも何れの頃より稱へしや詳ならず、其名稱を解釋せんことの舊記に見へたるは紀州有田郡廣村、崎山治郎右衛門、影堂の銚子海上郡、三崎庄有銚子浦蓋州之北陸常之南疆有洪川源達流廣水之注干海處酷迫迹而似銚子之水出施其口所以世俗喩之爲浦名也とあり、輓近注子又は鳥嘴と書するものあり、或は銚子の假名も天不志と書くべし、即ち遠伏くの意なりと云へるは皆文人詞客の好奇に出てたることにて取るに足らざるなり云〻。

川口明神

川口明神

停車場より十七町にして飯貝根の山上にあり圓福寺の背後の丘上にあり、拜殿には「白紙大明神」と書せる扁額ありて、川口を望み常陸鹿島の浦を一眸に眺望し風光極めて壯快なり。

川口明神の緣起大意、昔當國四日市場に長者あり、其女に延命姫、容貌醜かりしが如何なる宿世の緣なりけむ、安倍晴明を戀ひ慕ひて遂に迎へて夫婦となりぬ、されど晴明是を厭ひ、家を逃れ履を小濱村の海濱に止めて、西安寺に匿れぬ、女これを見て水死せる者とし身を投けて死しぬ、土人其不幸を憐み、齒及ひ櫛をこゝに埋め、齒櫛明神といひしを、今は誤りて白紙明神といふと、又今俗に容貌の醜なる者櫛を收めて祈願すれば必ず美麗になるととけり。

犬吠岬

犬吠岬

銚子の町より東南へ一里にして世人の普く知れる岬角なり、南西の邊を外川濱といひ、北を君ヶ濱竺王濱といふ、女夫ヶ鼻へは西方十町許りなり、高さ二百四十呎ありて北方及ひ南西の兩海岸より俄然突起するを以て其名著明なり。

飯沼は銚子の口を扼して本銚子町といふ又飯貝根の川口、山和田山、千人塚の邊を總稱していふ春海の歌に曰く「海上の沖の八潮路雲きえて浦わの千ぶねあさひさきせり」とあり、香取日記に曰く和田山といへる松木深く生茂り海中に一の島、二の島三の島と稱へし大なる岩立てり、一は常陸國の波崎に打よせあるは三の岩にありて且つ碎け且つ越行くさま繪にもかゝまほし此頃の雨風につなかれし大舟などあまた友綱ときて浮び出たる帆影などいと面白くして譬へ言はんかたなし。

犬吠岬を始とし海岸の勝地は最佳なり、之を磯廻りの名所とす、何れも海岸波

浪の無限の美觀を伴ふ、河口に一の岩二の岩あり殆んと銚子の港内といふべし、

圓福寺

川口より黑生岬の間を平磯といふ、此地二十六夜待の名所なり、岬の南方に海瀨島あり、昔は幾多の海獺群集して其聲鵞のなくに似たりといふ、其他霧ヶ濱、胎内潛、帆掛石等の名勝あり。

鵜明浦

淺間山圓福寺は銚子町の東にあり、阪東札所二十七番の觀音にして東京淺草觀音の規模を少にしたるものと見て可なり、世に飯沼觀音といふ、銚子の全景を一幅に收む、此地淨園寺へ四町淺間山十三町なり。

外川浦

銚子の名所として其名高し奇岩怪石宛然堤の狀をなし風光明媚なる眞に絶景といふべし。

高津村の南なる漁船此漁の要地にして、崖上には東茅苅島西茅島と稱する二碓ありて風景最佳なり、利根川圖志に曰く銚子川口の臺塲千人塚より目戸鼻、帆懸岩までを平磯といひ、海瀨島は岸より四五町計離れたり此邊を里上濱ともいふ、

旅館

石多し島には年中葦鹿あり、或は二三十、八九十多きは二三百に及ぶ、之を望み見るに數多の葦鹿重なり合ひ、上になり下なり狂ひ遊ぶさま犬の子の乳を爭ふか如し、外川の濱は漁業塲なり云〻とあり。

歸路

旅館曉雞館(銚子より一里港角第一の避暑地)其他快哉樓、御風館等あり。歸りは銚子一番列車前五時四十分又は前六時五十五分、前九時、前十一時二十分等の列車にて發し沿道の名勝舊蹟を探りて歸京するもよし、今茲に參考として擧れば左の如し。

「飯岡驛」飯岡岬海水浴、「干潟驛」櫻の名所鎌數大神宮、「八日市塲驛」九十九里濱、「松尾驛」芝山二王尊、「成東(なるとう)驛」成東館「佐倉驛」梅園、宗吾刑塲、「千葉驛」千葉神社其他數多あり「稻毛驛」袖ヶ浦海水浴、「幕張驛」海水浴、「船橋驛」意富比神社「中山驛」中山法華經寺、百花園「市川驛」弘法寺、眞間國府台「小岩驛」善養寺星下松、

「平井驛」平井聖天宮「龜戸」「本所」附近にも名勝舊蹟等尠からず。

銚子。費用及支出概算

▲汽車賃

兩國停車場より銚子停車場まで（片道）

三等貨金一圓十四錢　二等貨金一圓七十八錢　一等貨金三圓

▲曉雞館（電三六番）

○宿泊料　並等金一圓五十錢より金二圓以上

○貸室料（別紙明細表の如し）

▲快哉樓

○宿泊料　上等金二圓　中等金一圓　下等金五十錢

○盡食料

上等金五十錢　中等金三十錢　下等金二十錢

貸室料は面談の事

◎曉雞館貸室料明細表左の如し

新室海面付

座敷番號	壓數	六月十五日ヨリ九月十五日ニ至ル夏季 一週間	九月十六日ヨリ六月十四日ニ至ル冬季 一週間
廿五號	六	參圓拾五錢	壹圓七拾五錢
廿六號	八	參圓八拾五錢	貳圓
廿七號	拾	四圓貳拾錢	貳圓四拾五錢
廿八號	六	參圓拾五錢	壹圓七拾五錢
廿九號	八	參圓八拾五錢	貳圓
卅號	八	參圓八拾五錢	貳圓
卅一號	六	參圓拾五錢	壹圓七拾五錢
卅二號	拾	四圓九拾錢	貳圓八拾錢

舊室海面付

座敷番號	壓數	六月十五日ヨリ九月十五日ニ至ル夏季 一週間	九月十六日ヨリ六月十四日ニ至ル冬季 一週間
六號	六	貳圓四拾五錢	壹圓四拾錢
七號	八	參圓拾五錢	壹圓七拾五錢
八號	六	貳圓四拾五錢	壹圓四拾錢
九號	八	參圓拾五錢	壹圓七拾五錢
拾號	六	貳圓四拾五錢	壹圓四拾錢
拾壹號	八	參圓拾五錢	壹圓七拾五錢
拾貳號	九	參圓八拾五錢	貳圓拾錢
貳拾號	七半	貳圓八拾錢	壹圓七拾五錢

新室山側				舊室山側			
卅三號	八	一週間 貳圓八拾錢	一週間 壹圓七拾五錢	拾三號	六	一週間 壹圓五錢	一週間 七拾錢
卅四號	八	壹圓七拾五錢	壹圓四拾錢	拾四號	八	壹圓七拾五錢	壹圓五錢
卅五號	八	同	同	拾五號	六	壹圓五錢	七拾錢
卅六號	八	同	同	拾六號	八	壹圓七拾五錢	壹圓五錢
卅七號	八	同	同	拾七號	六	壹圓五錢	七拾錢
卅八號	八	同	同	拾八號	八	壹圓七拾五錢	壹圓五錢
卅九號	八	同	同	拾九號	八	壹圓七拾五錢	壹圓五錢
四十號	八	同	同				
夜具料	組	一夜 夏冬共 參拾五錢	水上一夜拾參錢 綿	同並拾錢			
蚊帳料	十丈	五錢	八丈四錢	六丈參錢			

●玉突場及ビ寫眞暗室ノ設備アリ

稻毛

稻毛海濱＝袖ケ浦＝黑砂海濱

集合地 兩國停車場　**集合時間** 午前八時半

△午前九時十五分兩國停車場を發し「龜戸」「市川」「中山」「船橋」「津田沼」「幕張」の各停車場を經て午前十時二十七分「稻毛」停車場に着す（一番列車「前五時二十五分發同六時四十六分着」次きは「前六時四十分發同七時五十八分着」「前九時十五分發前十時二十七分着」又夜行は「後六時發同七時十八分着」（二〇哩二一時間十二分）

△毎年七月上旬より九月下旬まで毎土曜日曜大祭日に限り二割引にて往復券を發賣することあり

稲毛

下總國千葉郡稲毛は海岸に倚りたる一聚落にして、袖ケ浦海水浴場には磯馴松幾百本となく生繁りて、播州舞子の濱の趣きあり、汐干地引網等最盛にして近來夏時には海水浴の客最多し、東京兩國より僅かに二〇哩なり。

黒砂

稲毛と登戸の間にある海濱にして稲毛來遊の者は此地に杖を曳かざるべからす、更科日記に曰く深き川を船にて渡る、其夜は里戸の濱といふ所にとまる、かたつかたは廣き濱なる所のすなごは、はる〳〵としろきに松原しげりて月いみじうあかきに風の音もいみじう心ぼそし人口をかしがりて歌よみなをするに

まとろまじ今宵ないではいつかみむくろとの濱の秋の夜の月

旅館

（旅館）「稲毛」海氣館（撿見川岸稲毛にあり、此館は風景最富み稲毛大山の綠樹杖を交したる處に客室を設けて湯浴あり清泉あり

來遊の時には前日に通知し置くべし

歸路

歸途は稲毛より約三哩なる幕張驛には約三町にして海水浴場あり、約十五町にして「鷺沼」「頼朝館趾」あり、約三哩なる津田沼驛には「小金原」「習志野」あり約二哩なる船橋驛には有名なる「意富比神社大神宮」あり「慈雲寺」「茂侶神社」「時平社」及ひ「海濱」等あり、約二哩なる中山驛には日蓮宗四本山の一なる「法華經寺」「八幡神社」「宇多天皇勅建」「銀杏神木」あり、約一里半ある市川驛には「眞間弘法寺」「眞間繼橋」「手兒奈堂」「國府臺總寧寺」「市川公園等あり約一哩半なる小岩驛には「星下松」を以て有名なる「善養寺」約二十町にて「柴又帝釋天」あり、約一哩なる平井驛には「聖天宮」あり、約半哩なる龜戸驛には「天滿宮」あり、「臥龍梅」「柳島妙見堂」「龍眼寺」「木下川梅園江東梅園」等あり本所驛にも名勝舊蹟等も尠からず。

稲毛。費用及支出概算

▲汽車賃

兩國停車場より稲毛停車場まで（片道）

三等貨金三十五錢　二等貨金五十四錢　一等貨金九十錢

○割引往復券三等貨金五十四錢　二等貨金七十一錢

▲「稲毛」海氣館

○宿泊料

一等金一圓五十錢　二等金一圓十錢　三等金八十五錢

○壹食料

一等金六十五錢　二等金五十五錢　三等金四十錢

○席料は海水浴中七月十五日より九月十五日まで、三日間以上滞在なれば相應の料金を支拂ふなり、又た一週間以上になれば特別の割引あり

▲「稲毛」養生館

當館は別段定まりたる規定なし只客の注文に應じ調理せり、然し宿泊料は夜具料其他一切のものを見込み「朝飯共に」見斗りの献立にて一泊金五十錢位より

大洗

大洗海濱＝磯前神社＝平磯＝磯濱町

集合地　上野停車場　**集合時間**　午前五時半

△午前六時（一の關海岸廻一番列車）にて上野停車場を發し「日暮里」「三河島」「南千住」「北千住」「鹵有」「金町」「松戸」「馬橋」「柏」「我孫子」「取手」「藤代」「佐貫」「牛久」「荒川沖」「土浦」「高濱」「石岡」「羽鳥」「岩間」「友部」「内原」「赤塚」の各停車場を經て午前九時七分「水戸」停車場に着す（次の列車は前九時發にて後十二時四十五分着す）（或は後五時五分發にて同五時四十五分水戸着し同所へ泊するもよし）（七三哩　三時間二十七分）

△毎年七月上旬より九月中旬まで海濱廻遊列車平驛まで通用期限十四日間二三等割引往復券を發賣す。

水戸市上市三の丸杉山通り海岸より（停車場より八町）港町祝町間汽船一日七回

の往復ありて、那珂川を下り港の對岸祝町に上陸、此處より凡二十町の海濱を歩して常剡大洗に着す、此間三里二十五町なり。

杉山海岸發船時間、午前六時三十分、同八時三十分、同十時、同十一時三十分、午後一時三十分、同三時四十五分、同六時、祝町港發時間、午前六時、同八時、同十時、同十一時三十分、午後二時、同三時、同五時三十分、

（此の發着時間は屢〻變更あり）

大洗

子日原

磯濱の市街の東なる岬にして、海中に斗出すること三町餘り、碓石奇岩海中に亂立して怒濤之を洗ひ、飛沫雪の如し、風光美にして海山の壯麗なる眞に畫くが如し、夏季避暑の好適地にして來遊する者いと多し。

一帶の砂地にして太洋に臨み風景最も佳なり、德川光圀公の愛せしといふ老松も幾百年の古さかをも知らず「萬代を松に契りて今日までは子の日の原にひかれ來にけり」「子を思ふ涙ひぬまの一の松浪にゆられて幾代經ぬらん」との二歌は光圀卿の和歌なり。

旅館

（旅館）「大洗」魚來庵。金波樓

海水浴を以て名あり、又た湯浴を以て著る、前面は太平洋縹渺として白砂青松眞に畫くが如し。

大洗磯神社

大洗磯前神社

大洗岬の岡上にあり千有餘年の古社にして國幣中社なり、祭神は「大巳貴命」「少彦名命」を合祀す魚來庵より磴を登れば本社ありて遥かに銚子犬吠崎と相對す。

此地の俗謠として名高き磯ぶしあり曰く「磯で名所は大洗さまよ松が見えますほの〳〵と松が見えますほの〳〵と」

港町は水戸の東三里にて那珂川の海口の左岸にありて那珂港といふ「港江に旅寢の床は波もたく枕の上によるとぞきくと内藤義泰の歌あり。

平磯

平磯旅館

港の東北廿町海水浴場として名あり、海中に護摩壇石といふ奇石あり、突出すると二十餘丈壯觀極りなし、北へ廿四町にして酒列磯前祠あり。

（旅館）平磯にて最たるは「開運館」「平磯館」「平野屋」等あり。

磯濱町

磯濱町

大洗と個沼川との間にある丘陵の下なる所をいふ俗稱して袖ケ浦といふ、海水浴場として名あり。

常陸滯に曰く岩舟山より海つらを傳ひて、大洗磯前の神社へ參詣す、社の前にこゝらの岩あり、白波に打よせて碎け散る樣卯の花、垣の風に瓢るが如し、磯の濱といふ所まで行く云々。

祝町は那珂川個沼川との合する處にして南岸にあり岩井濱ともいふ、水戸より約三十町許なり、此地の俗歌を擧く。

磯でまかり松、港で女松、中の祝や男松、中の子祝町やイソ男松。船はちやんころでも炭薪積まぬヲヽ荷物はイソ米と酒。

歸路

歸りはもとさし往路をとるか、又は陸路磯濱町の方にとり水戸上市へ出て、其より停車場に着するもよし《此間三里半餘にて人力車の便ありて約三時間位にて到着す》往復券購入せば「湯本」「關本」「助川」「下孫」等の沿岸の海水浴場に立寄るもよろしからん、或は歸路「土浦」驛に下車して同所より午後三時發の汽船にて午後五時「鹿島」へ着し同所鹿島神宮を拜し、其より汽船にて佐原なる「香取神宮」へ賽し、總武線佐原驛より汽車にて「千葉」驛を經て東京「兩國」驛へ歸着するもよし、又「土

浦」より汽船にて午前九時卅分同所を發し午後「銚子」に着し其より海岸「成東（なるとゝ）」海水浴「八日市場驛」九十九里濱「横芝驛」の芝山二王尊等を遊覽して「佐倉驛」に着し同驛にて成田行きに乘換へ「新勝寺」「佐倉宗吾社」等を順拜し「千葉驛」より汽車にて「稻毛」「船橋」「中山」「市川」等の各停車場を經て東京兩國驛に歸着するもよし。

大洗。費用及支出概算

▲汽車賃

上野停車場より水戸停車場まで（片道）

三等賃金一圓十五錢　二等賃金一圓八十錢　一等賃金三圓三錢

○海岸廻遊券平驛までの切符購入せば三等賃金三圓五十錢にして通用期限十四日間なり

▲汽船賃

水戸市杉山海岸より祝町まで　貨金十三錢

湊町まで金十二錢　但三十人以上五割引

▲人車馬車賃

祝町より大洗まで金十五錢位（人車賃）

湊町より大洗まで金二十五錢位（同　上）

水戸より大洗まで金四十五錢同磯濱まで金四十錢（同　上）

水戸より大洗まで馬車賃金二十五錢、同磯濱まで金二十錢

▲「大洗」魚來庵　魚類清鮮にして料理は自得の長技ありといふ。

○宿泊料

一等金一圓二十錢（朝三品夕六品）　二等金一圓（朝三品夕五品）

三等金五十錢（朝三品夕四品）　四等金六十錢（朝三品夕三品）

○畫食料

一等金五十五錢（四品）　二等金四十五錢（三品）　三等金三十錢（三品）

▲「大洗」金波樓、同別莊

○宿泊料

一等金一圓五十錢　二等金一圓　三等金八十錢　四等金六十錢

○昼食料
一等金七十錢　二等金五十錢　三等金四十錢　四等金二十五錢

▲磯濱町「曲松」肴屋太平

○宿泊料
上等金八十錢　中等金七十錢　下等金六十錢

○昼食料
上等金三十錢　中等金二十五錢
海水浴一週間(貼)上等金五圓六十錢　並等金四圓九十錢

助川

助川海濱＝下孫海濱＝川尻海濱

集合地　上野停車場　**集合時間**　午前八時

△午前九時(仙臺行)にて上野停車場を發し「日暮里」「北千住」「金町」「馬橋」「我孫子」「荒川沖」「土浦」「石岡」「岩間」「友部」「水戸」「大甕」「下孫」等の各停車場を經て午後一時四十九分「助川」停車場に着す(次の列車は前十一時三十分の發にて後四時四十二分着す(九二哩七　四時間四十二分)

△毎年七月一日より九月十日まで上野より平驛まで海岸廻遊割引往復券を發賣することあり(通用期限十四日間)

助川

常陸國多賀郡にありて磐城海道の一名驛なり、天保六年水戸藩海防の布令を發

し助川に塞を起したるとき山野邊家老を以て守將となしたる所なり。

此地は常磐線中の海水浴場にして東なる海岸を會瀬といふ、毎年夏期に至れば諸方より避暑に來る者多くして旅館は空間なしといふ。

會瀬浦

會瀬浦

助川の東にある海村を會瀬といふ、地誌に曰く會瀬とは相賀浦をいふ、此地古久慈郡助川川郷の内にて、風土記に見へたる遊廓の地なり、元祿中までは相賀村といひしを水戸義公の古の會瀬浦なりとて改められしなり、思ふにかく命ぜられしは相賀村の海邊を會瀬浦なりといひ傳のありしと見えたり、名所名寄名所千句等に當國の名所の内に入たれば由緣あることなり。

八幡清水

八幡清水

助川の土佐といふ地にありて旱天と雖も乾涸することなく水質清淨にして土人の飲料水となり居れり、傳へて曰く八幡太郎義家箭鏃を以て穿ちし所なりとて八幡清水と號す。

下孫

下孫

助川驛の前驛たる下孫鮎川も又た海水浴場として其名高し、停車場より十五町なり、河原子の海水浴場は停車場より十町なり、此等の海水浴場は例年三伏の候に至れば來遊する者多し、諏訪の梅林は十八町、諏訪の水穴へは二十五町なり、源義家の遺蹟たる眞弓山へは一里十八町あり。

川尻

川尻

助川の次驛なる「川尻」も海水浴場として名あり、日本養蠶の祖神と稱する蠶養

神社までは廿二町あり、日本三堂の一と稱する大師堂までは六町、恭石濱へは二十五町にして山尾城へは八町なり。

又た「水戸驛」の次驛なる「佐和」にも磯崎海水浴ありて停車場より二里十五町、「下孫」の前驛なる「大甕」にも久慈濱の海水浴場あり停車場より十五町なり大甕神社は眺望絶佳とて其名あり。

旅館　（旅館）「助川」東曉館、眺洋館、港屋等、「川尻」には「海月亭」、「大甕」には銀波樓あり。

歸路　歸路は「川尻」「高萩」「磯原」「關本」「勿來」「湯本」「綴」「平」等の海岸線の海水浴場を巡遊して歸路につくもよろし。

助川。費用及支出概算

▲汽車賃

上野停車場より助川停車場まで（片道）

三等貨金一圓四十錢　二等貨金二圓十七錢　一等貨金三圓六十五錢

○川尻まで三等貨金一圓四十八錢　○大甕まで三等貨金一圓四十錢

○海岸線廻遊割引往復券（平驛まで）

二等貨金四圓五十七錢　三等貨金二圓九十二錢

▲「助川」東曉館

○宿泊料

並等金八十錢より金一圓位まで種々あり

○晝食料

金十五錢より金三十五錢位まで種々あり

○席料　金三十錢位より金一圓位まで

▲「助川」金清樓

○宿泊料

一等金一圓五十錢　二等金一圓二十錢　三等金九十錢

○晝食料

一等金六十錢　二等金五十錢　三等金四十錢

○貸室料（一ケ月）
上等金十五圓　並等金十圓

▲「川尻」海月亭

○宿泊料
金四十錢より金五十錢まで

○畫食料
金十八錢より金二十五錢まで

▲「大甕」銀波樓

○宿泊料
上等金八十錢（五品）　中等金六十錢（五品）　下等金四十五錢（五品）

○畫食料
上等金三十錢（三品）　中等金二十五錢（三品）　下等金十八錢（三品）

關本

大津海濱＝平潟港＝勿來關

集合地　上野停車場　**集合時間**　午前十時半

△午前十一時三十分（原の町行）にて上野停車場を發し「日暮里」「北千住」「金町」「馬橋」「柏」「我孫子」「藤代」「牛久」「荒川沖」「土浦」「高濱」「石岡」「友部」「水戸」「勝田」「佐和」「石神」「大甕」「下孫」「助川」「小木津」「川尻」「高萩」「南中郷」「磯原」等の各停車場を經て午後五時四十一分關本停車場に着す（一番列車は前六時發にて後十二時二分着）（次の列車は後二時二十分發にて後十時五分着す（一一二哩四　六時間十一分）

關本

常陸國多賀郡關本は平潟大津の西にして、勿來關へは三哩餘なり、近傍五浦の

風景に富む名所あり、東海岸方一の海水浴場大津、平潟ありて一日の遊覽には頗る妙なり。

大津町

大津町

停車場より十八町にして神岡の東に突出する岬角の西側にあり、漁舟出入の便あるを以て繁榮の地なり、崖角を六所鼻と名づく風景最佳なり。

外交史稿に曰く文化七年五月西洋英吉利國船二隻大津浦に來り、小舟に分載し銃を携へて上陸す、水戸藩或兵之を捕縛し士卒を增し戰守の備をなす、少頃あり て本船並で進み岸に近く、其狀我虛實を窺ひ戰を開かんとするが如し、既に して人を遣し切に囚人を歸さんことを請ふ、則ち通辯をやり之を詰る曰く、船中病者あり藥餌を求めんが爲め來り、國法を諳んせず、故に戎裝して岸に上れり、請ふ其罪を免せよと是に於て囚人を放還すと云ふ。

平潟港

旅館

平潟港

大津町より北方へ三十三町にして古來より有名なる平潟港へ出づ、三面皆崖にして風光明媚なり、芭蕉翁の句あり「このあたり目に見ゆるものみな涼し」

港内は袋の如くして右に日和山あり、左に鷹捕の岬あり、東西三丁南北五丁なり、水底は悉く岩石にして水淺し、夏日來遊する者最も多し。

平潟沖から帆をまきあげて（サイショヲ）港川口走りこむ（ミナトヲ）河口（イソ）走りこむテヤ〳〵イササカリンズノスカレチャドン〳〵（平潟の俗歌）

（旅館）「大津町」八勝園、金澤屋（夏時は前日までに通知し置くを便とす）

勿來關

勿來關

關本より線路を通り山腹を登ること七八町にして古松七八株ありこれ舊關の跡

なり、この關は則ち源義家が此地をすぎて國風を詠ぜしを以て特に古來より有名なり、山上に碑あり曰く

吹風を勿來の關と思へどもみちもせにちる山櫻かな　義家

又た飛鳥井雅宣卿が奥州配流の時此地をすぎて詠ぜし歌あり

九面や潮みちくれば道もなしこゝを勿來の關といふらむ　雅宣

旅館

（旅館）「勿來」櫻雪館あり。

關本より岩花冷泉へは六町、關山鑛泉へは十八町なり、湯網溫泉へは一里なり、又た勿來より松川磯へは十町、花園日枝神社へは三里なり。

歸路

歸路は沿岸の海水浴場數多あれば、海岸線廻遊往復券を利用して湯本、綛の高野鑛泉「平」の海水浴「四ッ倉」の海水浴、「木奴美浦」海水浴、「玉山溫泉」久の濱の海水浴場等を巡遊して歸るもよろしからん。

關本。費用及支出概算

▲汽車賃

上野停車場より關本停車場まで（片道）

三等貨金一圓六十三錢　二等貨金二圓六十錢　一等貨金四圓四十錢

○海岸線廻遊割引往復券（平驛まで）

二等貨金四圓五十七錢　三等貨金二圓九十二錢　（通用期限十四日間）

▲「關本」大津、海岸、八勝園

○宿泊料

一等金一圓七十錢　二等金一圓四十錢　三等金一圓十錢

○晝食料

金五六十錢より金二十錢位まで

湯本

湯本溫浴＝湯本神社＝住吉神社＝野田玉川＝小名濱海濱

集合地　上野停車場　**集合時間**　午前五時

順路

△午前六時(一の關行)海岸線にて上野停車場を發し「日暮里」「北千住」「龜有」「金町」「松戸」「柏」「我孫子」「牛久」「荒川沖」「土浦」「神立」「高濱」「石岡」「岩間」「友部」「水戸」「大甕」「下孫」「助川」「川尻」「高萩」「南中郷」「磯原」「關本」「勿來」「植田」「泉」等の各停車場を經て午後十二時四十六分湯本停車場に着す。(次の列車は前九時發にて後三時二十九分着)(一二六哩六　六時間四十六分)

湯本

湯本

磐城國石城郡にありて溫湯の湧出する靈泉を以て古來其名高し、三函溫泉は四面丘陵を以て繞りし一市街をなせり、泉質は鹽泉にして無色なり、熱度百二十七度効能は痳病婦人諸病等に特効あり、浦竅數十ヶ所ありて田畠の間又は人家各處に散在して自由に入浴するを得實に東海岸中の一遊樂地なり。

鑛泉誌に曰く三函は鹽類泉百二十七度の熱湯にして泉竅甚だ多く五十餘源と稱へられ、人家の中、田甫の個所々に湧出す。

湯嶽又は三箱山といふ、湯本より一里にして山上に櫻楓樹多くして、近くは湯本市街を脚下に望み、東に「小名濱」の海水浴を遠望し、四時風景最も美なり、嶽上に三石あり、泉源是れより出づといふ、近來石炭の產地として其名高く入山白水炭坑等は最著名なりとす。

湯嶽

湯本神社

湯本神社

三函溫泉の南の隅にありて停車場より三町にして一名溫泉神社と稱す、佐波古御湯是なり、俗に岩城の湯とも呼べり大祭日は毎年五月八日なり。

世とともになげかじ君をみちのくのさはこの御湯と云はせてしかな

藻鹽草

住吉神社

住吉神社

湯本より東南一里半にして玉川村住吉村に至りて小名濱へは西北二里なり、祭神は「中筒男命」「底筒男命」「表筒男命」を合祀す、寛文十八年内藤政勝の改造なり、境内老樹蒼々として社殿は壯麗なり、毎年十月十三日を以て大祭を執行し流謫馬の神事等あり。

野田玉川

野田玉川

玉川村の大字にして奥州の歌の名所にして野田玉川といふ「夕されば汐風こして陸奥の野田の玉川千鳥啼くなり」能因法師の和歌あり、

茂れ〳〵名も玉川の玉柳

小名濱

小名濱

海水浴場として其名高き小名濱は二里にして、東に網取崎あり突出十町許なり、南は海岸に臨み風景絶佳なり、輕便鐵道馬車の便ありて毎日十回宛往復すといふ。

陸奥千鳥に曰く石川の郡へ入て岩城へ山越に通る、此道筋難所といふ萬に不自由馬不借宿不備立ち寄るべき辻堂もなし、一夜は洞に寢て明くれば漸く小名濱へたどりつゝ岩城平驛なり所は東南海を受けて出崎〳〵の危色沖は獵船磯は鹽を燒き陸は人家滿ちて繁華の市、牛馬に道をせばむ。

桃隣

初鰹さぞな所は小名の濱

旅館　（旅館）（湯本）「蔦屋」「湯本ホテル」「山形屋」「松柏館」等あり。

歸路　歸路は次驛なる「綴」より一里なる高野鑛泉あれば入浴して歸るもよろしからん

又歸途水戸へ立寄り舊水戸中納言城邑、及日本三公園の一たる偕樂園、常磐神社、藤田東湖墓、吉田神社等を遊覽して太田線へ乘換へ同驛にて下車し、阪上田村麿の築く所と稱する城趾を一覽し、又た有名なる德川光圀公が隱棲せし西山館、又久昌寺水戸家歴代の墳墓、及び朱舜水の墓へ詣で、其より再び水戸へ歸着して赤塚驛の好文亭、内原驛の成澤溫泉、及び小松内大臣平重盛の墓に詣で、友部驛より乘換へして石岡、土浦、我孫子、松戸、金町等の各停車場を經て歸着するもよし。

湯本。費用及支出概算

▲汽車賃

上野停車場より湯本停車場まで(片道)

三等貨金一圓七十八錢　二等貨金二圓八十三錢　一等貨金四圓七十八錢

▲「湯本」鳶や

○宿泊料

一等金一圓五十錢　二等金一圓　三等金八十錢　四等金六十錢

○畫食料

一等金五十錢　二等金四十錢　三等金三十五錢　四等金二十五錢

▲「湯本」湯本ホテル

○宿泊料

一等金二圓五十錢　二等金一圓五十錢　三等金一圓　四等金八十錢　五等金六十五錢

○畫食料

一等金六十五錢　二等金五十錢　三等金四十錢　四等金三十錢

▲「大甕」銀波樓

○宿泊料

一等金八十錢　二等金六十錢　三等金四十五錢

○畫食料

一等金三十錢　二等金二十五錢　三等金十八錢

順路

原釜・原釜海濱＝中村神社＝松川浦＝四倉海水浴

集合地　上野停車場　**集合時間**　午前五時

午前六時（一の關行）海岸線一番列車にて上野停車場を發し「日暮里」「三河島」「北千住」「我孫子」「牛久」「土浦」「高濱」「石岡」「岩間」「友部」「水戸」「下孫」「助川」「川尻」「高萩」「磯原」「關本」「勿來」「湯木」「綴」「平」「四ッ倉」「久の濱」「小高」「原の町」「鹿島」等の各停車場を經て午後五時十二分「中村」停車場に着す

（次の列車は前九時發後七時三十六分着）（一九二哩一　十一時間十二分）

中村

中村

相馬郡にありて相馬氏の舊城邑なり、市街の繁榮なること平驛に距ぐ都邑なり、東西六町南北十二町にして人口五千五百を有す、甲子夜話に曰く相馬家は伊達氏仙臺領の界に墓所あり戰爭の時此山を一人も越せぬ樣に守るべしと先祖の遺訓にて代々の葬地にせらるゝ由に候、伊達の相馬と、島津の伊東と何れも大身なる人を敵にとりて太平のときも其危を怠れざりしといふ。

古書に曰く

中村の名產として名高き相馬燒は、もと藩主の官窯なり、元和寛永の比京都の御室の名匠仁清の技術を承け之を創む、專ら茶碗を造り、之に野馬を畫く、野馬の馳驅の形は即ち藩主の紋章なり。

中村神社

中村町にありて妙見山に鎭坐す、祭神は天御中主神にして昔平將門下總國守屋城に勸請し慶長十六年殿堂を再營し、明治五年に中村神社と改稱す、境內幽邃にして堤上に梅櫻あり春季に至れば杖を曳くもの多し。

相馬神社へは十數町にして、相馬の家高祖、將門十一世の孫相馬次郎師常の神靈を祭りて現今は縣社に列せられ境內杉あり檜ありて幽邃なり。

原釜

原釜

中村の東北一里八町にして遠く金華山を望み、風光佳絶にして常磐線中第一の海水浴場とす、年々盛夏の候に至れば、西より東より來る者多ければ、旅館等は其前日までには申通し置されば空間なしといふ盛況なり。

旅館

（旅館）「原釜」東洋館、其他「原釜ホテル」「望海樓」「相馬館」等あり。

松川浦

松川浦

宇多川の河口に風光明媚なる長浦あり之れ有名なる松川浦といふ、青松白砂相映して風景明媚にして中村より約二里なり、實に國中第一の勝景にして東海の一大奇勝地といふも可なり。

松川浦の十二景あり曰く「松川浦」「水莖山」「飛鳥港」「雛崎」「松沼濱」「川添森」「紅葉岡」「沖賀島」「梅川」「長刻磯」「鶴巣野」「文字島」なり。

春や猶たくいもなみのあけほのにかすむ緑のまつかはの浦

歸途は沿道の名勝舊蹟等遊覽しゆくもよろしからん、今茲に之を擧ぐれば次驛なる「鹿島」には鹿島神社あり（六町）男山八幡宮、眞野神社、片葉あし等あり、「原の町」驛には澁佐海水浴、泉長者館址、辨慶腰掛松あり、「磐城太田」驛には相馬妙見あり、「小高」驛には相馬藩第一なる德一大師の創建なる靈場あり、「浪江」驛には宮原瀑あり、神鳴山三里にして相馬霜臺侯戊辰の戰場へは十町なり、其他躑躅紅葉等の名所あり、「長塚」驛には野上溫泉諏訪溫泉、海水浴場、蘆野神社等あり、「富岡」驛には佛濱海水浴、野上溫泉、岩井戸鑛泉あり、「木戸」驛には岩澤觀音及弘法大師が一夜にて本尊を作りしといふ大瀧神社へは二里二十八町なり、「廣野」驛には、折木鑛泉等あり「久の濱」驛は館野五郎館趾及び海水浴場として名高し、次驛なる「四ッ倉」驛は特に海水浴場として名著くければ一項をあげて記さん。

鐵路沿道名勝舊蹟

四ッ倉

四ッ倉

常磐海岸線の一名邑にして祐天上人の誕生地として其名著しき最勝院あり、海水浴場へは停車場より十町餘にして海水清淨にして夏期遠近より來るもの多し。

波立薬師堂

送王山波立寺と號す屈指の古刹にして停車場より二十餘町あり、大同元年海中より長八寸の瑠璃光如來を發見して其靈驗現なるに感して當本尊となすといふ。

木奴美浦

神崎より北へ二里餘淺見に至るまでの總稱にして海水浴場として其名高し、西行の歌あり曰く「東路のこぬみが濱にひと夜寢てあすや拜まん波立寺」

旅館

（旅館）「四ッ倉」豐田千代吉

歸路

歸路は「草野」驛にて專稱寺鶴龍松、「平」驛にて飯島神社、赤井の藥師等あり。毎年七月上旬より九月上旬まで「上野」「平」間の海岸線往復券を發賣すれば（通用十四日間）此間の（海水浴場）「助川」「關本」等の外數多の海岸を巡遊して何回往復するも隨意なれば之れに依て歸着するが面白からん。

原釜。費用及支出概算

▲汽車賃

上野停車場より中村停車場まで（片道）

三等貸金三圓四十三錢　二等貸金三圓八十錢　一等貸金六圓四十錢

○海岸線往復割引券は三等貸金二圓五十二錢（平驛まで）

平停車場より中村停車場まで（片道）三等貸金六十三錢、二等貸金一圓一錢、一等貸金一圓七十二錢

中村停車場より四ッ倉停車場まで（片道）三等貸金五十六錢二等貸金九十一錢一等貸金一圓五十五錢

▲「原釜」東津館

○宿泊料　特等金一圓十錢　一等金九十五錢　二等金八十五錢　三等金七十錢　四等金六十錢

▲「原釜」「原釜ホテル」

○宿泊料一等金一圓五十錢　二等金一圓二十五錢　三等金一圓　四等金八十錢

○弁食料　一等金五十錢　二等金四十五錢　三等金三十五錢　四等金二十五錢

▲「四ッ倉」豐田千代吉

○宿泊料　一等金八十五錢　二等金七十五錢　三等金六十錢

順路

逗子

逗子海濱＝森の戸浦海濱

集合地　新橋停車場　　**集合時間**　午前六時

△前六時五十分（横須賀行）一番列車にて新橋停車場を發し「品川」「大森」「蒲田」「川崎」「鶴見」「東神奈川」「神奈川」「横濱」「程ヶ谷」「戸塚」「大船」「鎌倉」の各停車場を經て午前八時四十五分「逗子」停車場に着す（次の列車は前八時四十分發にて前十時三十四分着、又た後五時發にて後六時三十九分着）（三三哩　一時間五十五分）

△毎年七月一日より九月十五日まで並に十二月二十五日より翌年一月十日まで大祭祝日當日前日及毎土曜日曜日に限り割引券を發賣す。

逗子

相州三浦郡にあり驛より其海岸に至るまで西へ約十餘町は水最も清く波また穏かにして湘南秀絶の風光といひつべし、海濱は葉山に至るまで景色亦佳良にして西方には伊豆相摸の峯巒送迎せる上に、高く富士の秀峰を望み、一轉頭を廻せば江の島の絶景遙かに双眸の中に收む、年々九夏三伏の候に至れば浴客群集し來る。

逗子より葉山の海濱山野には所々に貴顯紳士の別莊多くありて景色の佳なることは申までもなし。

古書に曰く逗子は豆師に作る豆師は天正十八年文書に見え一書には厨子にも作る豆師は圖師の訛か案主公文圖師など中代の莊田管司の給人職名に見ゆとあり。

逗子の北なる大字久木にあり、風土記に曰く建保元年四月和田義盛が代官久野谷彌次郎とあるは當所の在名を稱せしなり、岩殿觀音堂は坂東札所第二番にして昔は鎌倉將軍家屢々參詣ありし所なり。

（旅館）「逗子」養神亭　（海濱の風景最も絶佳にして避暑の最適地なり）

森戸の浦　三浦郡の西岸堀内村海濱を總稱して森戸浦といふ、前面には相摸灘を隔てゝ遙かに豆州と對し海上數町にして小島點在し風光頗る明媚なり、其南方を長者ヶ崎と呼び海水浴場として盛夏の候に至れば西より東より來集する者最多し、其後丘は旗立山にして畠山重忠の三浦大介義澄を敗りたる古戰場にして風景亦よろし。

旅館　（旅館）「森戸の浦」長者ヶ崎、長者園

歸路　此地附近には名勝舊蹟等最多く約二里にして金澤八景「九覽亭」「筆捨山」「能見堂」「金澤文庫址」「稱名寺」等あり、當驛より三哩程先きなる「田浦」驛に至れば吾妻山「天津山」等ありて此地一帶の風光の美なる妙を盡せるはいふまでもなし、又一哩ささなる「横須賀」驛は我國第一の軍港なり、二里半にして「ペルリ上陸紀念碑」あり、一里半にして大津海水浴あり、歸途約三哩なる「鎌倉」驛へ下車して此地の名勝舊蹟の數多あるを探りて「長谷」より電車にて「極樂寺」「追場」「行合」「七里ヶ濱」「腰越」の各停車場を經て片瀨に着し砂地を數町にして「江の島」の風光を賞し「片瀨」より電車にて「西方」「鵠沼」「石上」の各停車場を經て藤澤停車場に着し、同所より東海道汽車にて「大船」「戸塚」「平沼」「川崎」等の各停車場を經て新橋停車場へ歸着するもよし。

毎年七月上旬より九月中旬まで及十二月下旬より翌年一月上旬まで新橋停車場より國府津又は横須賀線往復券を發賣す、通用期限七日間にして「大船」「國府津」間及「横須賀」の各驛に一回宛乘降隨意なれば逗子行もこの往復券を購入するを以て便とす。

逗子。費用及支出概算

▲汽車賃

新橋停車場より逗子停車場まで（片道）

三等賃金五十六錢　二等賃金八十六錢　一等賃金一圓四十三錢

○湘南海濱廻遊券（新橋品川より）

三等賃金一圓三十錢　二等賃金二圓十三錢　一等賃金三圓五十錢

○同上廻遊券（横須平沼より）
三等貸金一圓　二等貸金一圓五十錢　一等貸金二圓五十錢

▲「逗子」養神亭

○宿泊料

並等金一圓三十錢より金二圓位まで（三食共）以上

客室大小五十餘室玉突場の設備あり、今回海岸に千有餘坪の庭園を改造し專ら多人數の園遊會及宴會等の會場の需に應じ、特に園懇會は模擬店餘興等之に要する器具一切完備しあれば最も好都合なり、又園遊會等は同園のみにかぎらず都合により何處にても出張引受するとの事

但し園遊會一名の會費は金一圓位以上より相談致すとの事

鵠沼

鵠沼海濱＝藤澤遊行寺＝片瀬より江の島＝七里ヶ濱＝鎌倉

集合地　新橋停車場　**集合時間**　午前五時

△午前六時十五分（大垣行）にて新橋停車場を發し「品川」「大森」「平沼」「大船」等の各停車場を經て午前八時一分「藤澤」停車場に着す（次の列車は前九時發にて前十時四十七分着す）又は「後四時發同五時四十五分着、後五時三十分發同七時八分着」（三〇哩四、一時間四十六分）

△毎年七月一日より九月十五日まで並に十二月二十五日より翌年十月十日まで及大祭祝日前日當日毎土曜日曜に限り割引券を發賣す。

藤澤遊行寺

相摸國高座郡にあり大富町とを合せて藤澤町といふ、此驛は「江の島」「鵠沼」「鎌

倉」等來遊客の昇降頻繁にして夏時は最も繁盛なり、俗に遊行寺と稱するは停車場より數町の地にあり、清淨光寺と號す時宗の總本山にして名高き寺なり、開山は呑海上人にして正中二年俣野五郎景平創建にして當寺住職は諸國を遍歷布敎するを以て世に遊行上人ともいふ境内に小栗判官滿重を祠れる小栗堂あり。

藤澤停車場の傍に江の島電氣鐵道停車場あり此處より乘車して「石上」を經て鵠沼に着す此の間約二十五町なり徒歩するもよろし。

鵠沼（くげぬま）

藤澤電車停車場より廿五町にして江の島を距る西北十二町なり前面には江の島の孤島を手に取る如く眺め東は片瀨腰越を隔てゝ相摸安房の諸山を水天髣髴の間に眺望し、南には大島及び伊豆の小島を眺め西には芙蓉の靈峰を仰き、後方には大山の連峰を遶りて山海の眺望二つながら備はり風景眞に畫圖の如し。

此地の海水浴場は岸一帶の沙濱にして且遠淺にして浪高からず潮水も又清潔也

（旅館）「鵠沼館」「待潮館」等あり。

鵠沼に一泊し翌日電車にて「西方」を經て「片瀨」に着し同所より途上數町の砂地を經て「江の島」を遊覽し、其れより又「片瀨」より電車にて「腰越」「七里ヶ濱」「行合」「追場」「極樂寺」等を經て鎌倉長谷に着す（此間の海岸には掛茶屋數多あり）同所を遊覽して同驛より汽車にて歸るもよろし。

晝食は「くげ沼」より腰辨にて出掛ければ「七里ヶ濱」邊にて海濱の風光を賞しつつ喫するも面白し、又は長谷觀音にて鎌倉の景勝を眼下に集めて喫するも愉快也。

鎌倉

鎌倉は東西二里南北一里餘にして「雪の下」「大町」「小町」「扇ヶ谷」「坂の下」等の十三ヶ村に亘る一鄕の總稱なり此地の名所舊蹟の大略を擧れば「鶴ヶ岡八幡宮」

「鎌倉宮」「荏柄天神」「壽福寺」「長谷觀音」「長谷大佛」等にして「青砥藤綱」が錢を撈せしめし「滑川」も停車場より程遠からず、「由比ヶ濱」は海水浴として其名高し、此附近より三浦半島を眺望すれば其絶景に恍惚たらしむ、其他各所の舊蹟等はとても茲に枚擧すると能はず。「茅ヶ崎」驛附近には茅ヶ崎の海水浴ありて其名著し、又た「平塚驛」の花水河畔よりして富士の大峰を眺望するは又となき美觀なり。

歸りは汽車にて「大船」にて乘換へ或は直行列車に乘りて「戸塚」「程ヶ谷」「平沼」等を經てもときし路をとりて新橋停車場に歸るもよろし。

鵠沼。費用及支出概算

▲汽車賃

新橋停車場より藤澤停車場まで(片道)

三等貨金五十二錢　二等貨金八十錢　一等貨金一圓三十二錢(鎌倉まで同貨金)

○海濱廻遊往復割引券(通用期限三日間)

藤澤、鎌倉停車場まで(一等券發賣せず)

三等貨金八十二錢　二等貨金一圓二十五錢

○湘南廻遊券(横須賀線一回宛乘降隨意)(通用期限七日間)

三等貨金一圓三十錢　二等貨金二圓十錢　一等貨金三圓五十錢

▲電車賃(江の島電車貨金)

藤澤より石上二錢　鵠沼四錢　西方六錢　片瀬八錢　腰越十錢　七里ヶ濱十二錢　行合十四錢

追場十六錢　極樂寺十八錢　長谷二十錢　海濱院通り二十一錢　大町二十三錢

▲「鵠沼」鵠沼館

○宿泊料

並等金一圓三十錢位より以上(席料三食共)

○「江の島」金龜樓(茶代不要)

○宿泊料

(特)一等金二圓五十錢　一等金二圓　二等金一圓八十錢　三等金一圓五十錢　四等金一圓

三十錢　五等金一圓

○並食料　特等金一圓五十錢より五等金五十錢まで

▲「鎌倉」光明館

○宿泊料　一等金一圓五十錢　二等金一圓　三等金七十錢

大磯　照ヶ崎海濱＝鴨立澤＝沿岸海濱

集合地　新橋停車場　**集合時間**　午前五時

△午前五時三十分（國府津行）一番列車にて新橋停車場を發し「品川」「大森」「平沼」「大船」「藤澤」等の各停車場を經て午前七時三十四分「大磯」停車場に着す

《次の列車は「前六時十五分發にて前八時三十分着」「前七時二十分發同九時二十五分着」「前九時發同十一時十六分着」「又は夜行は後五時三十分發にて同七時三十四分着す」》（四〇哩八、二時間四分）

△毎年七月上旬より九月中旬まで並に十二月下旬より翌年一月上旬まで及大祭祝日當日前日毎土曜日曜には海濱行往復割引券を發賣す、通用期限三日間なり。

△「發賣區間」新橋品川より横濱平沼より藤澤鎌倉行、茅ヶ崎行、平塚行大磯行國府津行逗子行、とす。

△海濱回遊割引券は湘南廻遊券と稱す通用期限七日間「大船」「國府津」間及横須賀各驛に一回宛乘降することを得。

大磯

相模國中郡にありて東海道の名驛なり、東西十一町南北五町なり、前面には相模洋を控へ右方には箱根の群峯左方には三浦三崎を眺め、背後には富士の大峯を仰いて風光明媚なり眞に勝地と稱すべし。

抑々大磯の海水浴は此地に遊びし人は知るならん、各旅館に「蘭嶋」と署せし扁額の掲げあるを見るへし、此れ大磯人士が崇拜すべき人にして則ち此地に海水浴場を擇びたる大恩人と感謝すべき陸軍々醫總監松本順氏なり、氏は明治九年に此地の人體營養に効用あることを說き有志者と圖りて「濤龍館」を建築し浴客宿

泊の便に供せしより以來避暑客の來遊年々相增し現今にては海水浴場としては我國第一といふも過言にあらざる程になれり。

照ヶ崎

此地の海水浴場は沿岸いづれも可なりと雖も照ヶ崎を以て最とす、海岸に巨岩床をなし東西共に二町程を隔て天然の岩石連立し波浪を防ぎ危險の患ひ等毫もなく婦女老幼皆安んじて海中に入り嘻々として浴するとを得、此地は丘陵の翠綠滴るか如く烟波漂渺たる江の島初島等を眺望し風景爽快にして眞に畫くが如し。

八景

大磯八景とは(一)高麗山晚鐘(二)花水川夕照(三)小余呂岐晴嵐(四)鴫立澤秋月(五)照ヶ崎歸帆(六)唐土原落雁(七)富士の暮雪(八)化粧坂の夜雨なり。

高麗山

鐵道線路を距ること數町の處にあり、山上に高麗神社あり樹木蒼々として深邃靜々眺望絕佳なり、此邊冬は最も暖く、夏は最涼しく避暑には最好し。

鴫立澤

大磯宿と小磯宿との間にあり、地は一推の丘狀を爲して老松古杉蟠屈して南には相模洋を望みて風景最美なり、丘上に西行堂あり鴫立庵あり又虎子石ありて大磯の虎の像を置く。

虎子石

延台寺境內にありしが今は寺廢絕して田甫中に小堂あるのみにして此處に石を納む高さ二尺一寸巾一尺餘ありて石面に鏃のあとあり、相傳ふ曾我十郎祐成度々大磯の妓虎の許に宿泊す、工藤祐經十郎祐成を殺し其災を避けんとて間者を虎の家へ遣し弓を以て狙射せしに中らずして其の石に中りて恙なきを得たり故に十郎祐成身代石ともいふなり。

唐土の原

大磯の海邊より大住郡及び高麗寺村邊までの海邊をいふ、

花水川

から山と色々にをる錦かな櫻にさけるもろこしの原。(和歌手習)

高麗山の東を流るゝ川にして廻國雜記に曰く花水川といへるを渡りて、「咲と見へ散ると見ゆるや風渡る花水川の浪の白玉」とあり。

大磯は夏のみならず誠に四季不斷の遊覽に適したる地なり、春は照ヶ崎の汐干狩千疊敷の摘草、夏は避暑の海水浴、小陶陵の夕立、秋は鴫立澤の月、坂田山の紅

旅館

葉、冬は避寒の海水温浴探梅等あり。

（旅館）「濤龍館」「招仙閣」「長生館」「角半」「山本樓」「百足屋」「金波樓」「國吉」「三好屋」等あり。

歸路

歸りは翌日歸京することもよかるべし毎年發賣の臨時廻遊列車往復券を購入せば三日間は此附近の名勝舊蹟等を廻覽して歸京することをうべし、今茲に沿道について遊覽の地を擧ぐべし。

大磯より約七哩ほど先きなる「二の宮」驛の次き「國府津」停車場に下車し、同所より電車にて「小田原」を經て「湯本」に至り箱根七湯を（溫泉を看よ）巡遊し、其より「松田」驛より一里半なる大雄山最乘寺に詣で約三里半にして「小田原」驛に至り、同所より電車「國府津」より汽車にて「二宮」「大磯」を經て「平塚」より約四里十八町なる阿夫利山（大山）に登り其れより「茅ヶ崎」海水浴「藤澤遊行寺」「大船」より「鎌倉」「江の島」を遊覽し「戸塚」「程ヶ谷」「平沼」「横濱」「神奈川」「川崎」「蒲田」を經て「大森」より「森ヶ崎」の海水浴へ立寄り「品川」を經て「新橋」停車場に歸着するもよし。

「國府津」には（旅館）「蔦屋」、「國府津館」、（茅ヶ崎）には「茅ヶ崎館」、（江の島）には「金龜樓」「岩本樓」「さぬきや」「惠比壽や」等あり。

大磯。費用及支出概算

▲汽車賃

新橋停車場より大磯停車場まで（片道）

三等貸金六十九錢　二等貸金一圓五錢　一等貸金一圓七十五錢

○新橋、品川より國府津橫須賀行往復券（七日間通用）（海濱遊往復券）

三等貸金一圓三十錢　二等貸金二圓十錢　一等貸金三圓五十錢

○海濱行往復割引券

○新橋より　藤澤鎌倉行　三等貸金　八十二錢　二等貸金　一圓二十五錢

同　茅ヶ崎行　同　九十四錢　同　一圓四十五錢

同　平塚行　同　一圓〇四錢　同　一圓六十錢

同　大磯行　同　一圓十錢　同　一圓七十錢
同　國府津行　同　一圓二十六錢同　二　圓
同　逗子行　同　八十八錢　同　一圓四十錢
○品川より　藤澤鎌倉行　三等貨金　七十四錢　二等貨金　一圓十五錢
同　大磯行　同　一圓〇三錢　同　一圓六十錢
同　國府津行　同　一圓十八錢　同　一圓八十錢
○横濱平沼より藤澤鎌倉行　三等貨金　三十八錢　二等貨金　六十錢
同　大磯行　同　六十四錢　同　一圓
同　國府津行　同　八十錢　同　一圓二十錢

▲大磯「濤龍館」

○宿泊料

並等金一圓五十錢より金二圓五十錢まで
其他好次第幾干にても調理すべし

○席料金四十五錢より金二圓まで

▲大磯「長生館」

○長生館にては大磯の海邊に清遊して浩然の氣を養ひ齡を延ぶるを以て目的となすとて「ながいき會」なるものを設け會員は誰人も入會することを得るなり。

會員は土曜日の夕刻より日曜日の朝に至る、期限内滯在して宿泊料一室の食料茶代男女手當等一切にて金五圓なり。

▲大磯「角半樓」

○宿泊料

金七十五錢より以上、以下

○晝食料

金三十錢より以上、以下

海水温浴は早朝より設けあり又電氣浴の設備もあり

▲茅ケ崎「茅ケ崎館」

○宿泊料

上等金一圓五十錢　中等金一圓二十錢　並等金一圓

○晝食料

上等金八十錢　中等六十錢　並等金四十錢

停車場より八丁にして車代十二錢

▲國府津「蔦屋德太郎」

○宿泊料

上等金一圓六十錢　中等金一圓四十錢　下等金一圓十錢

○晝食料

金五十錢より金六十五錢位まで

○貸室料は一戸建の外に一室貸もあり、一室は一日金十錢より二十五錢、夏季は金四十錢一戸建貸室料、一ヶ月金十三圓より金三十三圓まで（夏季は殆んど倍額）

蔦屋第一別莊を「瑞勝」園第二を「海鼠園」といふ

▲國府津「蔦屋」第一別莊瑞勝園

宿泊料金一圓十錢（三食）席料は一間一日金二十錢より金四十錢位

其他席料は別にあり

沼津

牛臥山海濱＝我入道海濱＝千本濱＝靜浦海濱

集合地　新橋停車場　**集合時間**　午前五時半

△午前六時十五分（大垣行）にて新橋停車場を發し「品川」「大森」「神奈川」「平沼」「大船」「藤澤」「大磯」「國府津」「松田」「山北」「小山」「御殿場」「佐野」「三島」の各停車場を經て午前十一時十五分「沼津」停車場に着す（次の列車は午前九時發午後一時五十八分着）又は夜行急行（三等）後七時三十分發にて後十一時二十三分着、後四時（沼津行）にて後九時四十分着す（八四哩四　五時間）

順路

沼津

沼津

駿河國の東端にあり駿東郡の南方にありて東海道驛中屈指の驛なり、土地廣袤東西十九町四十二間南北十九町二十間あり、氣候溫和にして常に新鮮なる海風を

受けて空氣清淑なり、海濱の風光の美に至つては到る處明媚ならざるはなしといもふ可ならん、此地はもと延元元年の頃足利尊氏其將今川範國を以て守護としかれ沼津城を之に充て諸藩より入學する者最多く、當時は頗る繁盛なりしが明治四年廢藩置縣のとき兵學校を廢せられたり、其後明治二十一年東海道の鐵道は全通せしを以て日に月に旺盛となり遂に今日の隆盛を見るに至れるなり。

牛臥山

牛臥山

停車場より南方へ港橋を渡り往くこと二十數町にして牛臥海水浴に達す、海中に突出せる一小丘は牛臥山にして其狀恰か牛の臥するが如きを以て此の名あり、此の地は我入道より更に眺望爽快にて遙かに田子の浦の風景と相對し東南には翠松繁茂して三保の松原に似たり、岸頭には「淡島」「瓜島」「高島」「辨天島」等の奇岩起伏し南は海を隔てゝ「寢釋迦山」「大瀨崎」を望み東は「鷲頭山」を眺望し且つ北方には富士の大峯雲表に峻立し蒼海漫々として髣髴水翁つて天と接し時々白帆の風を啣んで相往來する樣覺へず恍惚たらしむ。

旅館

（旅館）「牛臥」三島館あり、潮水を以て溫浴場の設けあり。

千本濱

千本濱（千本松原）

沼津の海岸の總稱にして長五百八十八間なり、駿河灣は一望鏡の如く白砂一帶翠松を生し枝態雅致を極め幽翠人を襲ふ、傳曰ふ此の松樹は乘運寺の開祖增譽上人の植ゆる處なり、西には田子の浦、三保の松原、久能山、清水港等南には豆州の大瀨崎と相對し、北には富士愛鷹の峻嶺を仰き水天模糊の間に四方の風景を眺め心身爽快恰も羽化して登仙するが如し。

千本濱の海水浴は其名著しく大磯鎌倉等よりも海水の質よろしきやの感あり、

例年盛夏の候に至れば遠近より來浴する者頗る多し、且つ此處には茶店等の設けもあれば浴客には最も便なり。

我入道

海水浴場を以て知らる、日蓮上人伊豆伊東より着船の處にして古は臥牛洞と稱す、狩野川の口南岸にありて沼津町より南へ二十五町許り、西北には田子の浦の風景を遙望し近くは千本松原の翠松を望み、香貫山の滿山芝草生ひたるを眺望し、北には富士の大嶺を仰拜し風色の幽雅なる自ら塵垢を洗ふに堪へたり。

旅館

（旅館）松風館あり、此樓上より眺望すれば復た歸るを忘るゝ思あり。

靜浦

靜浦

沼津より南へ約一里にして靜浦村志下の海濱にして牛臥山より東南の海岸は則ち靜浦なり、眼前には牛臥の山を眺望し栗島爪島は目前にありて風光の美なる眞に愛すべし此地は空氣清淨海水最も良くして、前面には駿河灣を控へをるを以て海浪最も穩かなれば婦女小童と雖も愛ふるに足らず、又た「獅子濱」の眺望は遙に富士を望み片帆眞帆は行きちがふさま眞に絶景といふべし。

旅館

（旅館）「靜浦」保養館等あり。

名勝舊蹟

此地附近には名勝舊蹟等最も多く且つ山海の景色殊に秀麗なる地多ければ今茲に大略を擧くべし。

車返坂

停車場より東南なる三枚橋北方一帶をいふ、此處より風景は畫くか如し、文明十二年六月太田道灌此坂を過くるとき夕立に遇ひて歌あり曰く

川廊

鳴神の聲も頻りに車坂轟かし降る夕立の空

上土町の總稱にして東方には函嶺を眺望し南方には香貫山牛臥山鷲頭山伊豆の群山を望み光景最も愛すべし。

鑿原

狩野川の一帶をいふ往古潮水の多く浸し蓼草の生ぜしを以て此名あり。

平重盛の墓

揚原村下香貫にありて靈山寺境内にあり、墓標表面には「靈山寺殿證空大居士」

白隱禪師の遺蹟

裏面には「治承三年己亥八月朔日彌平兵衛宗清奉之」と刻めり。

原町松蔭寺の境内にありて禪師の住棲したる處なり。

歸路沿道名勝舊蹟

其他日吉川の風景、鞠子の古祠信、嶺の白雲、香貫山不動岩、毘沙門山の櫻花、桃郷の桃花、江の浦、頼朝御座石、浮島原、浮島沼等ありて鈴川附近の風色最も富む。

又た「沼津」より「富士驛」を經て「岩淵驛」日蓮宗本山身延山久遠寺を廻覽し「蒲原驛」を過ぎて「興津驛」にて清見寺絶勝を眺め、田子の浦三保松原の風光を望み、又海水浴を以て名あれば此地に足を止めて遊覽するもよろし、又た「江尻驛」には龍華寺大蘇鐵あり、鐵舟寺へは三十四町なり、清水港は十五町にして海水浴場へは僅かなり、例年鐵道廳にては東海道「沼津」「江尻」「興津」附近の廻遊列車を發するを以て此の便によつて遊覽するも面白からん。

歸路

歸路船に強き人は東京灣汽船にて午前七時沼津汽船定繫場を發し「田子」「松崎」「子浦」「妻良」「中木」「大瀬」「手石」「下田」「横濱」を經て翌日前五時東京靈岸島汽船定繫場に着するもよし。

沼津。費用及支出概算

▲汽車賃

新橋停車場より沼津停車場まで(片道)

三等貨金一圓三十錢　二等貨金二圓二錢　一等貨金參圓四十錢

▲汽船賃

沼津より東京まで(往路)金壹圓七拾四錢

▲「我入道」松風館

○宿泊料

金八十錢(並等)より種々あり席料上等金二圓位まで

▲「牛臥」三島館

並等席料三食共金一圓六十錢より

席料は一日金五十錢より金一圓まで

料理を別段好むときは一品金十五錢より金三十錢

夜具は金一錢より金十二錢まで、蚊帳金七錢より金十錢まで

▲「千本濱」沼津館

○宿泊料

上等金八十錢　並等金七十錢

畫食料は別段定めなし

▲「靜浦」保養館

○宿泊料

特等金一圓七十錢　一等金一圓二十錢　二等金八十錢

○畫食料

特等金壹圓　一等金七十錢　二等金五十錢

○貸室料

一室金三十錢なり以上

▲「興津」興津館（停車場前）

○宿泊料

特等金一圓五十錢　一等金一圓二十錢　二等金一圓　三等金七十錢

○畫食料

特等金七十錢　一等金五十錢　二等金三十錢　三等金二十錢

▲「興津」東海ホテル（清見寺前）

○宿泊料

特別金二圓　一等金一圓五十錢　二等金一圓　三等金八十錢

○畫食料

特別金一圓　一等金七十錢　二等金五十錢　三等金三十錢

富士山（新橋より乘車御殿場に下車し登山の上更に御殿場より乘車して新橋下車）

集合地　新橋停車場　**集合時間**　午前八時

登山の一例

△午前九時（魚津行）にて新橋停車場を發し「品川」「大森」「神奈川」「平沼△」「大船」「藤澤」「大磯」「國府津」「松田」「山北」「小山」等の各停車場を經て午後一時十六分「御殿場」停車場に着す（次の列車は前十一時發後二時三十四分着）又夜行にて後四時沼津行にて後八時三十六分着す（六九哩一　四時間十六分）

△毎年六月下旬より九月上旬まで「御殿場」行七日間通用往復割引券を發賣す

出發前日御殿場驛旅館「松屋」、須走旅館、「近江屋」又は「富士屋」及び富士山本宮出張所等に宛て先觸れの通知を出し置くを最も便とす、さすれば人力車或は剛力等を雇ふに便利なり、此處にて登山準備辨當などの用意をなし夜半の一時に人力車にて御殿場を發し龍ケ原、太郎坊に着し午前四時頃には一合目に着し、二合目に差かゝる頃には旭日の東天より昇るを拜し、遲くも午後二時頃には絶頂に達するを得、此處にて一時間許り休憩して三時頃より下山すれば歸途は僅かに二時間にして達し七時半頃には御殿場に歸るを以て大に登山には便利なり。

富士山

東海に聳立せる皇國鎮護の靈峰なり、別に「不二」「布士」「不盡」「不時」「芙蓉峰」「四季鳴山」とも稱し駿甲の二國に跨る休火山にして山頂に巨洞あり、海面より抽くこと一萬二千四百六十餘尺なり、其余脚東南に向ふものは函根群山、伊豆の眞城山にして、東北に進むものは甲斐の天目山初鹿野山、大菩薩山、にして猶ほ武藏に入れば秩父の諸山を起す之を總稱して富士帶と號す。

富士山顯出の時代は詳ならざれども人皇六代孝安天皇の御宇涌出すといへり、古書には人皇七代孝靈天皇の御宇琵琶湖の顯出と共にありともいふ。

登山開始につきて世に傳ふる說に曰く、人皇三十三代推古天皇の御宇用明天皇の皇子聖德太子初めて登山し給ふといふ、次には文武天皇の御宇、役の小用、木履を穿ち登山苦行すといふ、其後は久安年間に至り富士上人山頂に一切經文を埋め、文保年間花園天皇の御宇僧賴尊登山せし以來、角行東覺登山し追々其數をますに至り、元祿享保には伊藤身流四十余年の久しき怠慢なく登山せられしより大に登山の行路を開き便宜を計りしを以て示來益々登山者の數をまし遂に現況を呈するに至れるなり。

毎年舊曆六月一日よりの山開きより向五十日間即ち雪の稍や解たる時を見て登山するを常とす。

仙客來遊雲外嶺、神龍栖老洞中淵、雪如紈素煙如柄、白扇倒懸東海天　石川丈山

富士のねは雪の絕間に見えそめていくかになりぬ東路の空　宣長

風になびく富士の煙の空に消えて行方も知らぬ我思かな　西行

そらにみつやまと島根に二つなき寶となれる富士のしは山　契冲

登山口

登山口

富士登山口には大宮口(表口)御殿場口(東表口)須走口(東口)吉田口(北口)須山口に五口あり、關西より來るものは重に「大宮口」より登山す此れを「表口」と稱す、甲州邊より來る者は「吉田口」より登る此れを「北口」と稱す、關東より赴く者は「御殿場口」及「須走口」より登山するを常とす。

登山

登山

東海道御殿場驛にて下車し御殿場口より登山す、驛前の旅館「松屋」「御殿場館」等に一泊して登山用意結束し夜半又は翌曉發足して、東に金時山の絕景足柄山の絕勝を眺めつゝ富士本宮官幣大社淺間神社に參詣し、一里八町にして「瀧ヶ原」に

着し、此れより一里三十二町にして「太郎坊」に至り、福島休憩所にて小憩し愈々此れより眞の登山となる、登るに老松古松森々として夏尚寒く往くこと數町にして一合目に到る、一合目より一合五勺目に至れば少しく上に平地あり、二合目には小室淺間神社あり此れより西へ上り行けば御釜石と稱するありて、古は之れより女人の登山を禁じたる所なり、猶二三丁にして金剛杖を賣る店あり、三合目には三軒茶屋あり、四合目には大なる岩石あり、之れより山の休憩所は暴風雨を防ぐ爲めに皆石を以て壘む、依て石室の名あり、此處にて須山口よりの登山者と合す、五合目には中宮の社ありて、五合目より三十町にして小御嶽社あり南には經ヶ嶽あり（富士上人一切經を埋めし處なり）岩に穴ありて古昔日蓮上人參籠せし所といふ、此邊より脚下を眺れば富士川の激流、浮島、蘆の湖等は只だ盆栽の水の如し、六合目邊は「かま岩」と稱す、七合目には駒ヶ嶽あり、五合目の東方に龜岩鳥帽子岩あり、八合目は所謂「大行合」と稱し須走口東登口よりの登山者と合する所なり、七合八合目邊は脚下に箱根足柄愛鷹の連山亘りて白雲は脚下に起り冷氣肌をさす、若し山麓にて夕立でもあらんか雷鳴は足下に聞き下より雨を吹き上るか如き珍事あり、又之れよりは俗に山中と稱し酒に醉たるが如くに呼吸又促迫し絶へず溜息をつくことあり之れ空氣の稀薄となり居るが故なり、九合目より頂上までは道最も險にして是れを所謂「胸突八町」と稱す、頂上に達すれば富士本宮奥の宮ありて絶頂の外輪を一周すること五十余町、同じく内輪を一周すること三十六町、俗に「御鉢巡り」といふ、四合目より以上には石室ありて登山者の休憩及び宿所の用に充つ、頂上右方を「藥師ヶ嶽」南方に指出したる岩を「獅子ヶ岩」といふあり、「勢至ヶ嶽」「銚子ヶ窪」を過れば小池あり「銀明水」といふ旱天といへども渇れず、又「劒ヶ峯」を下り西「賽の河原」に出て行くこと數十歩にして「金明水」あり、「藥師ヶ嶽」より下り八合目に至り此れより「走り道」にて二合二勺目に至り「砂拂」といふ所に至りて止む、其れより二合「太郎坊」「瀧ヶ原」等を經て下山す。

下山するには「走り道」より草鞋を二重又は三重に穿ちて尻に臺を結付けて七合目より一合二勺目まで辷り下るを常とす、此道を最も便とす僅かに二時間位にて達す、別に危険の恐れなくして安全なり。

御殿場東表口里程數等を擧ぐれば左の如し。（富士案内參照）

里程及歩數	地名	里程	歩數	歩數に要する時間	風景
自御殿場至瀧ヶ原	一里八町		二千九百八十四足	一時間十分	佳
自瀧ヶ原至太郎坊	一里卅二町十間			一時間五十五分	佳
自太郎坊至二合目			千六百五十足	四十五分	稍佳
自二合目至二合二勺目		（二）	千〇九十六足	三十二分	佳
自二合二勺目至二合五勺目		里	千九百二十足	四十五分	佳
自二合五勺目至三合目		二	二千百〇五足	三十二分	佳
自三合目至四合目		町	千八百九十五足	四十七分	佳
自四合目至五合目		十		三十分	最良
自五合目至六合目		五	二千百九十四足	六十分	佳
自六合目至七合目		（間）	千七百足	一時間五分	絶景
自七合目至八合目（胸突）			千九百八十足	五十七分	佳
自八合目至頂上			千六百四十足	三十七分	佳

「總里程」自御殿場至頂上五里六町二十五間　自太郎坊至頂上一萬九千百六十四足
御殿場東口走り道七合目より二合二勺目まで三十二町十間あり

旅館

（旅館）「御殿場」驛前、松屋傳二郎、御殿場館、不老館、住吉館、米山館（須走口）等あり。

剛力

剛　力

登山者は成るべく單身にて登山すべからず不時の災厄に遭遇すること尠からざれば必ず同行者を要すべし猶ほ剛力を同行すれば大に氣強きものなれば是非雇入るべし。

剛力一人の負擔すべき携帶品を記せば左の如し。

一褞袍三百匁目（一枚）　一辨當　百匁目（二個）　一鞋　五十匁目（十足）
一鷄卵三十匁目（十個）　一麵麭三十匁目（二斤）　一水瓶五十匁目（一個）

其他雜品二百匁內外剛力一人の負擔總量目は五貫目を限りとす。

剛力は頗る不安の念を抱く人あれども決してさにあらず最も義俠心に富み居るものにて親切にして叮嚀に案內す。

登山者携帶品

携帶品

双眼鏡、褞袍、毛布、草鞋、簑笠、寶丹、鷄卵、金剛杖、其他手帳、鉛筆、水瓶類なり。

服裝は輕裝を主として編笠は風雨を避け又炎暑を防ぐによし、猶ほ褌袢股引脚袢等にして草鞋は一人前數足以上は用意せざる可からず。

下山歸路

下山は七合目より前述の走り道にて二合二勺目に着し「須走口」に到着するか又は二合目より太郎坊を經て、元きし道を經て御殿場に歸着するか、又は下山口を「須走口」にとり「かりやす」「一里松」を經て須走口に至り籠坂峠を經て吉田口を經て（御殿場より此處まで野中鐵道馬車の便あり）中央東線大月驛より乘車して飯田町に歸着するもよし、又は御殿場より「佐野」まで汽車便にて同所佐野瀑園五龍館に立寄るも面白し。

或は富士登山に萬槲の汗を絞りしなれば、必ずや歸途御殿場より鮎澤、田中、深澤の各村落を經て約一里半にて乙女峠の絶景を賞し約一里にして函根の勝を探り登攀有絶の美を成して歸途につくも面白からん。（箱根巡りを見よ）

富士山登山。費用及支出概算

▲汽車賃

新橋停車場より御殿場停車場まで（片道）

三等賃金一圓十錢　二等賃金一圓七十二錢　一等金二圓九十錢

◎毎年六月下旬より御殿場驛行き富士登山の七日間通用往復券を發賣す（一等券發賣せず）
三等貸金一圓七十七錢　二等貸金二圓六十錢

▲御殿場旅館各店とも宿泊料同一なり

○宿泊料
一等金一圓五十錢　二等金一圓二十錢　三等金一圓　四等金七十錢
但半宿料は本料の七分を申受く

○晝食料
一等金七十錢　二等金五十錢　三等金三十錢

○剛力賃
御殿場より頂上御鉢巡りまで往復金一圓五十錢
但客の賄を受くるときは金七十錢

▲表口石室休憩及晝食料（馬返より八合目の石室）

○休憩料
特等金一圓　並等金五十錢

○晝食料
並等金二十錢より

▲乘馬賃（一頭につき片道三里四町）
御殿場より馬返しまで　金六十錢
同　太郎坊まで　金七十五錢
同　二合目まで　金一圓

▲馬車賃（野中馬車鐵道會社）
御殿場より太郎坊まで　金三錢――同上貸切車　金四十錢
御殿場より須走まで　金二十三錢――同上同　金三圓
御殿場より籠坂峠まで　金二十五錢

富士山（新橋より乘車御殿場へ下車、登山の上吉田口を經て大月驛より乘車飯田町へ下車）

△毎年六月下旬より九月十日まで往復廻遊割引券を發賣す通用期限七日間なり

(1)新橋或は品川停車場より乘車して往路御殿場に下車し登山の上更に御殿場より乘車して新橋停車場へ歸着。（前項ノ分）

(2)飯田町停車場より乘車して往路大月驛へ下車し吉田口より登山して大月を經て飯田町へ歸着（又は歸途御殿場より乘車して新橋停車場へ歸着するもよし）

◎登山往復廻遊券は新橋よりの乘車と飯田町よりの乘車との兩樣あり、依て今茲は新橋より乘車し飯田町へ下車通用七日間の廻遊によりて書きつらねん。

集合地　新橋停車場　**集合時間**　正午十二時

△午後一時十分（濱松行）にて新橋停車場を發し「品川」「大森」「平沼」「大船」「藤澤」「大磯」「國府津」「松田」「山北」「小山」等の各停車場を經て午後五時二十三分「御殿場」停車場に着す（又た夜行にて後四時（沼津行）にて同八時三十六分着す）（六九哩　一四時間十三分）

第一日＝新橋＝御殿場泊　第二日＝登山＝須走泊　第三日＝大月泊　第四日＝猿橋泊　第五日＝八王子泊　第六日＝高尾山泊　第七日＝歸京

富士山

我國の靈峯にして駿河甲斐の兩國に跨り、其余脚東南に向ふものは函根諸山伊豆の眞城山あり、東北に進むものは甲斐の天目山初鹿野（はじかの）の諸山なり、武藏に入りては秩父の諸山となる、古書に曰く孝安天皇の九十二年初めて現出すともいひ又た近江琵琶湖の陷沒と共に一夜の中になりしともいひて何れか信なるを知らず。

するがなる不二の高根は雷の音する雲の上にこそ見れ

加茂眞淵

玉をもて山はなすとも富士の根の雪より上のひかりをば見じ　契　冲

登山口

登山口

須走口即ち東登山口よりの分を紹介すれば午後五時二十三分御殿場驛に下車し、野中鐵道馬車の便によりて「本御殿」に着し旅館に投宿し登山輕裝の準備をなし其夜は同地に宿泊す。

宿泊

須走口登山

（宿泊）「本御殿」近江屋旅館（御殿場驛より十町）（第一日目）

翌日午前五時には鐵道馬車の便によりて「西田中」「仁杉」「水土野」を經て六時三十分須走驛に着す（三里十五町）此の間は村落田圃の山地なれば「わさふじ」「はかま」等の莎草類及び菊科植物等多く「中畑」「龍ヶ原」附近に至れば「ふじあはみ」等あり「瀧ヶ原」より「一里松」の邊は「富士あざみ」多して里人は之を山中勞ともいふ「一里松」より「太郎坊」に至る間は山水明媚にして「落葉松」等の喬木あり、登山者は須走にて淺間下宮を參拜し境内の清淨なる湧地にて身體を潔滌して登山するを常とす。

淺間下宮の後路を右へ廻り「一里松」より「馬返」を經て一合目に達し、其れより二合三合四合目邊までは深林鬱蒼として涼風徐に至り大に登山に便なり、且つ風景明媚にして眼界開豁奇勝に富み、六合目よりは彌々登るに從ひ滿目たた赭土焦石にして七合八合目邊は「しらがこけ」其他一二の蘚苔類を見るのみなり、八合目は「大行合」と稱して御殿場口よりの登山路と會合するところなり、九合目絶頂となるに從ひ空氣稀薄となりて呼吸促迫し來るなり。

此の登山口は五登山口中にて距離も最近く行路亦容易にして、且つ植物等の研究には他の及ざる利益ある所なるのみならず、風景絶佳にして名所舊蹟に富むを以て學者文人等は此の口より登山する者多し。

宿泊　須走より大月

（宿泊）「須走」米山館（其日下山して泊す）（第二日目）

（翌日は鐵道馬車の便にて御殿場驛へ歸着するもよろしからん、此の野中鐵道馬車は須走吉田間數里余の間を往復日々十數回にして夏季登山者の便に供せり）

須走に宿泊し翌朝同所より鐵道馬車の便にて約一里にして籠坂峠に着し（山頂には藤澤光親卿の墓あり）其れより吉田口を經て大月驛に達す、此間は舊蹟數多ありて吉田梨ヶ原の渺漠たる原野を經て鐘淵に至る、此間には「田中瀑」「佐伯瀑」「八日市瀑」等ありて吉田口より登山する者は皆な此處にて水浴をなし垢離淨身をなす、其れより數町にして淺間神社あり其他「山中湖」「西湖」「精進湖」「風穴」「本栖湖」「河口湖」「明見湖」「十二嶽」等にして「御阪嶺」は富士山遠望三景の一なりといふ、上の如く舊蹟等多く且つ風景絶佳なるを以て吉田口より登山する者多し。

須走口より籠坂峠を經て吉田口より谷村までは馬車便あり、中央東線大月驛まで約二里半にして同日は此地にて泊す、御殿場より吉田口までは六里半、谷村までは九里半なり。

宿泊　大月　猿橋

（宿泊）「大月驛」太田屋、伏見屋、島屋等の旅館あり（第三日目）

大月には「桂川」と「笹子川」との合する所に大月橋あり「岩城山城址」「七所明神」「石船神社」「勝山城址」等ありて、「笹子トンネル」は我國第一の大隧道にて延長は一萬五千二百七十五呎あり、「初鹿野」には「天目山」「田野古戰場」「茶湯山」「生害石」「旗立松」「大善寺」「松尾山古戰場」等あり。

大月より約一里半にして汽車の便もあれども徒歩するにしかず、「猿橋」甲州街道に當り大原村に屬す、此の地の桂川に架するものを猿橋（えんきょう）といふ、此流れ此地に來りて幅最も狹くなりて兩岸絶壁の上に架するものにして橋下に一柱なく西方より段々に木を組合せ所謂楕力を利用して造りたる橋にして、其奇工感ずべきものなり、依て周防錦帶、木曾棧橋と共に日本の三橋の一と稱せらる。

風景佳絶にして兩岸の翠峯は巍々として聳へ、急流は突兀として巖に激し、或

は狂瀾怒濤の如く、或は碎けて珠を濺ぎ、或は散亂して霧となり雨となり、其眞實幽玄なる天下絶勝ともいふべし。

宿泊　（宿泊）「猿橋驛」大黒屋旅館　（第四日目）

翌日午前八時一分にて猿橋停車場を發し「鳥澤」「上野原」「與瀬」「淺川」の各停車場を經て前九時二十三又分八王子停車場に着す、又は淺川驛へ下車するもよし。

八王子　八王子武州南多摩郡にありて東西三十五町南北五町あり、八王子城址には石壘及び十壘敷の跡を存す、其他「龍澤山」「竹林山」「月ヶ峯」の諸山ありて秋は楓に其名あり、猶ほ此地は絹織物の名産地にして毎月四の日八の日に市を開き年々少くとも五百萬圓の取引ありと稱せり。

大善寺　大横町にあり古刹にして關東十八檀林の一たり、境内呑龍上人の廟を安置す。

子易明神　停車場より北にあり、境内は一帶の平地にして眺望最もよく且つ古木多し、就中六本の「ケヤキ」の大樹は周り二丈余あり、池畔には清泉噴水して最も納涼に適す、境内には掛茶屋ありて休憩に適す。

宿泊　（宿泊）「八王子驛」角喜旅館　（第五日目）

高尾山　午前八時八王子を發足し「高尾山」までは里程一里許りにして乘合馬車の便あり高尾橋の傍まで一時間にして達す、山頂までは三十町にして山麓に茶屋あり、山上には古刹として有名なる藥王院あり、天正年間行基僧正の開創にして、後ち僧俊源不動尊の化身を彫刻してこれを祭る、飯綱善神は石段の嶮しき上にあり、社壇は建築壯麗にして彫刻又た精巧なり護摩堂、藥師堂、大日堂は石段の下右方にあり。

當山は武州にて著名なる山にして老松古杉蒼然として繁茂し楓其の間に點綴し毎年晩秋の候に至れば滿山紅葉して錦繡を織るが如く溪山の景色いと面白し。

山上より小徑を降り行くこと十七八町にして琵琶の瀧あり、高さ一丈余にして其水極めて清淨なり、能く神經病を癒すと傳ふるを以て精神病者此所に來りて療養するもの多し、又た東北に降り行くこと十二三町にて蛇の瀧あり、これは琵琶の

瀧より幅は狹けれども水勢は極めて急にして納涼に適し夏期態々來る者多し、此山に「佛法僧」と名くる鳥あり其啼聲佛法僧と聞ゆるを以て此の名あり。

宿泊　（宿泊）「山上」三軒茶屋旅館　（第六日目）

翌日午前九時十二分淺川停車場を發し前十時十一分國分寺停車場に着す。

國分寺　今は田甫の内に遺跡を止むるのみなり、古へは行基僧正の草創にして開山を敎心阿闍梨と號す、官幣中社大國魂神社は府中驛の中央にありて景行天皇四十一年創建にして毎年五月五日提燈祭ありて大の賑ふ。

百草園　停車場より西南の方二里許りの所にありて、元は松蓮昌禪寺と稱せし名刹にして、建久年間源頼朝以來源家の祈願所に定められたる名刹なりしが近來廢寺となり、横濱の靑木某此地を買收して今は公園地となしたれば來遊する者多し、後丘は著名なる「十國台」「淸涼台」等あり、此所に登臨すれば武藏野の遠望多摩川の淸流を眼下に收む、園内に氣樂亭といふ料理店あり。

角筈十二社　午後二時四十九分國分寺停車場を發し後三時四十一分新宿停車場に着す。

停車場より十余町にして淀橋の南角筈村にあり、祭神は熊野權現にして十二所の神を祭る、熊野十二所權現社と稱せしが世人誤て「十二そう」といへり、社殿淸洒にして老樹蒼々として泉池あり、熊野の瀧あり、其水淸冷夏日納涼に來る者最も多くして朝夕往復も自由なれば最も便なる仙境なり。

料理店は數多あれども皆ナ暴利店なれば立寄らぬがよろしからん。

歸路　歸路は汽車にて飯田町停車場に歸着するか、或は新宿にて往復券を捨て東鐵電車にて歸るもよし。（第七日目）

富士登山。費用及支出概算

▲汽車賃

新橋停車場より御殿場停車場まで（片道）

三等貸金一圓十錢　二等貸金一圓七十二錢　一等貸金二圓九拾錢

大月停車場より飯田町停車場まで(片道)

三等貸金八拾六錢　二等貸金一圓三十九錢　一等貸金二圓三十五錢

○往復廻遊券新橋停車場より乘車して御殿場驛にて下車歸路吉田口に降り大月驛より乘車して飯田町停車場へ歸着(期限七日間)

二等貸金二圓三十四錢　三等貸金一圓五十九錢

○往復廻遊券飯田町停車場より乘車して大月驛にて下車し吉田口より登山し歸路御殿場驛より乘車して新橋停車場へ歸着(期限七日間)

二等金二圓三十四錢　三等金一圓五十九錢

○往復廻遊券新橋停車場より乘車して御殿場驛にて下車登山の上更に御殿場驛より乘車して新橋停車場へ歸着(期限七日間)二等貸金二圓六錢　三等貸金一圓七十七錢　、以上廻遊往復券には一等券發賣せず)

○宿泊料

「本御殿」近江屋、「須走」米山館及び御殿場宿屋一定の宿料(但し半泊料は本料の七分を申受く)

一等金一圓五十錢　二等金一圓二十錢　三等金一圓　四等金七十錢

○晝食料

一等金七十錢　二等金五十錢　三等金三十錢

○宿泊料

▲「大月」、太田屋、伏見屋　金五十錢以上金一圓まで

▲「猿橋」、大黒屋　金四十錢より金八十錢まで

▲「八王子」、角喜　特別金一圓五十錢　上等金九十五錢　中等金七十五錢　下等金六十錢

▲「高尾山」三軒茶屋　一等金六十五錢　二等金四十八錢　三等金四十錢

▲富士山石室休泊及晝食料(馬返より八合目までの石室)

○休泊料　特別金一圓　並等金五十錢

○晝食料　金十錢より

鷄卵一個(大)金五錢　(小)金四錢五厘　草鞋(大)五錢　(小)四錢五厘

○剛力賃　御殿場より頂上御鉢廻まで往復金一圓五十錢

(但客の賄を受へるときは金七十錢とす)

順路

富士山（御殿場驛下車登山の上箱根巡り）

△毎年夏期發行の往復廻遊券を利用して登山の上歸路御殿場より箱根を巡り國府津停車場より乘車して（歸路藤澤驛へ下車するもよし）新橋停車場へ下車通用七日間の廻遊によりて書きつらねんとして紹介す。

集合地　新橋停車場　**集合時間**　午後三時

△午後四時（沼津行）にて新橋停車場を發し「品川」「大森」「神奈川」「大船」「藤澤」「大磯」「國府津」「松田」「山北」「小山」等の各停車場を經て午後八時三十六分「御殿場」停車場に着す（或は前六時十五分一番列車にて前十時三十二分着す）（六九哩　四時間卅六分）

△第一日＝新橋＝御殿場＝登山　△第二日＝下山＝御殿場泊　△第三日＝箱根底倉泊　△第四日＝箱根湯本泊　△第五日＝國府津泊　△第六日＝江の島又は鎌倉泊　△第七日＝歸京

富士山

東海に聳ゆる皇國の靈峰にして群嶽連峰を瞰下し、眺望十三州より之を望む、其狀宛も白扇倒に懸るか如く四時白雪を戴けり、孝靈天皇七年四月初めて雲霞晴れわたりて富士顯出すといふ、依て現今にても各登山口にては毎年其紀念の大祭典を執行す。

富士のねは雲の絶間に見えそめていくかになりぬ東路の空　宣長

山々はくれぬる雲の空に猶夕日をのこすふじの白雪　眞淵

登山

登山口は「大宮口」「御殿場口」「須走口」「吉田口」「須山口」の五口あり、關東より赴く者は普通御殿場口より登山するを常とす、驛前の旅館にて登山の準備をな

し、夜半或は翌曉發足なし、四方の絶景を賞しつゝ、富士本宮淺間神社より二里餘にして「瀧ケ原」に至り猶ほ一里三十二町にて「太郎坊」に着し、其れより數町にして本山の一合目に達す、此處より頂上まで二里二町十五間にして途中十町乃至二十町毎に休泊所あり、之を麓の方より一合目二合目二合二勺目二合五勺目三合目四合目と稱算して十合目に至り頂上に達するなり。

頂上には官幣大社は富士淺間神社奥の宮を初として數多の神社あり、外輪を一周すること五十餘町同しく內輪を一周すると三十六町俗に之を御鉢廻りといふ。

中央に舊噴火坑あり深さ數丈にして時としては其底に水を湛へ、周圍は皆峻險たる岩石より成り、其最高きものを「劍ケ峰」といひ其高四十丈其他「雷鳴ケ嶽」「鋸嶽」「馬の背山」「獅子岩」の小峯東西に起伏し又有名なる「金明水」「銀明水」等あり。

下山は七合目より二合二勺目まで走り道にて下山し同所より二合目太郎坊、龍ケ原等を經て下山し御殿場に來りて宿泊す。

宿泊

（宿泊）「御殿場」旅館「杵屋」、「不老館」、「御殿場館」等あり。（第二日目）

歸途箱根

御殿場より歸途は汽車にて佐野停車場に下車し佐野瀑園へ至り黄瀨川の中流の斷崖を落下する光景を遊覽し又は五條の瀧に汗を洗ふも宜ろしからん、然れとも仙寰の風靈境の趣きある函山の勝を探らざるべけんや。

眞に富士登山に汗を絞りしものはすべからく箱根の絶勝を探さるべからず、御殿場より「鮎澤」「田中」「深澤」の各村落を得て一里三十町にして乙女峠に達す、富士の遠望の好適地にして高さ二千五百五十余尺にして豆駿遠甲上野上總下總房武相の十國を一眸に收むるを以て別稱十國嶺とも稱す、外人は乙女峠の富士と稱す、眞に風景の美なる海內無比と稱するも可なり。

乙女峠より箱根各温泉地

乙女峠より西へ一里にして仙石原に出で猶ほ數町にして仙石溫泉に達す、仙石原より冠ケ嶽の東麓を迂廻して凡廿餘町にして姥子溫泉に至る、姥子よなり西へ

宿泊　箱根底倉

十數町にて湖尻に至る、東北には芦の湯あり、姥子の東へ八町にて大涌谷に至る、大涌谷より約十七八町にて強羅(ゴーラ)温泉に至る、強羅より十餘町にて小涌谷に至る、小涌谷より東南へ十數町にて底倉に達す、底倉より約六町にて木賀に至る、約一町にて宮の下に至る、宮の下より一里十五町にて塔の澤至る、塔の澤より約四町にて湯本に至る、先づ之れにて箱根七湯を巡遊するなり、乙女峠より仙石原宮城野を經て箱根底倉に着し、此地にて一日の清遊を試みるもよろし（此間駕籠及ひ乘馬に便あり）底倉にては（旅館）蔦や（澤田さく）梅屋（鈴木牧太郎）仙石屋（仙石丈助）の三戸あれば此地にて泊するがよし。（第三日目）

此地の温泉は弱鹽類泉にして「神靈湯」「萬壽湯」「太閤湯」「靈仙湯」「温潤湯」「梅の湯」「滝の湯」「二色湯」等ありて蛇骨川の涯畔にあり、明星ヶ嶽東北に聳へ斷崖二百尺溪涯岩石の間より温泉湧出す風景殊に幽邃閑雅なり。

深みどりしける青葉の底倉にすゝしき風はうちおこりつゝ　美　静

箱根宮の下　箱根塔澤

底倉より一日の清遊を試みんとせば小涌谷を經て芦の湯に赴き湯花澤に立寄り其れより元箱根に至り船にて湖水を渡り姥子大涌谷を經て底倉に歸る。

翌日の朝はなるべく早く發足して木賀に至り其れより宮城野に至り向山の中腹なる新開通運道路に出て途中堂ヶ島に下り宮の下に至るもよし。

木賀まで八町　木賀より宮城野まで五町　底倉より堂ヶ島まで七町　堂ヶ島より宮の下まで六町

宮の下には「旅館」富士屋ホテル、初月樓、奈良屋兵治、龍雲館安藤こう等あり。早川の沿岸にありて箱根の中心とも稱すべき地にして最も高地なり、春は左右山腹の櫻花白雲を曬くか如し、秋は滿山紅葉して錦の如し、富士見亭、大平臺等の富士の遠望の好適地あり、此地の温泉は三日月の湯、熊野湯、明治の湯、富士の湯、吉田湯、滝の湯等ありて入浴に適せり。

塔の澤は宮の下より一里十五町にて西南は湯阪山城山屹立し西北は松尾山明星

箱根湯本

ケ嶽の山脈連り宛然屏障を繞らせるか如し、此地は「旅館」として新玉の湯、玉の湯、塔の澤ホテル鈴木、一の湯、福住等あり。

塔の澤より湯本まで五町なり、此地は箱根の入口にして「旅館」萬翠樓(福住)其最たり、地は南方に石垣山石橋山を眺望し、北方は塔の峰雲表に聳へ、東方は開豁にして西方は湯阪山ありて其麓に溫泉湧出す其色透明にして水晶の如く泉質は少しく鹹味を帶べり。

早雲寺

湯本溫泉場本宿の東方にあり須雲川の橋を渡れば僅かに阪道を登ること一町許にして達す、此寺は金湯山と稱し北條早雲の遺言により北條氏綱の建立したる寺にして永元年間落成せしものなり、寺門は左甚五郎の作なりといふ。

早川

箱根の芦の湖より發して水路凡五里なり、此兩岸巍峨たる岩石にして水勢矢を射るか如く急にして岩石を轉ばし其響雷に似たり。

東路の湯さかを越て見わたせばしほ木流るゝ早川の水　十六夜日記

旅館

するかよし（第四日目）

（以上委しくは溫泉の卷箱根を見よ）

電車發車時間

箱根湯本より小田原電氣鐵道にて湯本を發し、小田原を經て國府津に着す。

發車時間午前四時四十九分　前五時三十二分　前六時二分　前七時　前七時四十一分　前八時三十一分　前九時四分　前十時一分　前十一時二十三分前十一時三十七分　後十二時十七分　後一時十五分　後二時四分等にして最終は後十一時二十六分發なり（其他二回の發車は小田原までなり）

國府津

東海道の名驛にして南は相模洋に臨み北は中村山を背にし海濱は海水浴に適す、二十町にして酒匂海水浴ありて一日の清遊に最も妙なり。

旅館

此地旅館は蔦屋ありて一の別莊を瑞勝園一を海望園と稱し海水浴場としては最便なり此地にて泊するがよし（第五日目）

國府津よりは大磯の海水浴茅ケ崎の海水浴等あれば此地にて遊覽するもよし茅

ヶ崎の次驛なる藤澤へ下車して遊覽するも面白し。

大富町大阪町の二區に分ち人口六千を有す大富町の北停車場より八町にして遊行寺あり、藤澤山清淨光寺と號す開山を呑海上人といふ俣野五郎景平の創建なり小栗判官滿重及照姫の墓あり。

藤澤

藤澤停車場より二十餘町にして江の島電氣鐵道の便あり海水浴場を以て其名高し海岸は一帶の砂地にして東南は江の島の孤島を双眸に收め、西には不二、北には大山を眺望して前方は茫々たる大洋に面し誠に壯快なる海水浴場なり、此處には鵠沼館等ありて最も便よし。

鵠沼

鵠沼より江の島電氣鐵道の便にて片瀨に着し同所より八町にして江の島の風光を賞し片瀨より電車にて腰越、七里ヶ濱、行合、極樂寺等の各停車場を經て長谷に着し同所長谷大佛、長谷觀音、櫓五郎社等を參拜して鎌倉に來り鶴ヶ岡八幡宮、鎌倉宮、往柄天神、賴朝墓所等を參拜して此地にて泊するもよし、又は江の島にて

歸路

此地湯本「旅館」としては福住樓福住九藏、小川屋萬右衛門等あれば此地にて泊するもよし（第六日目）

翌日は江の島又は鎌倉より汽車にて「大船」「戸塚」「程ヶ谷」「平沼」「神奈川」「東神奈川」「川崎」の各停車場を經て新橋停車場に歸着す（第七日目）

富士登山費用及支出概算

▲汽車賃

新橋停車場より御殿場停車場まで（片道）

三等賃金一圓十錢　二等賃金一圓七十二錢　一等賃金二圓九十錢

○往復遊券新橋より乘車して御殿場驛にて下車し登山の上、國府津又は御殿場驛より乘車して新橋驛停車場へ歸着（期間七日間）

二等賃金二圓六十錢　三等賃金一圓七十七錢（一等券發賣せず）

○宿泊料

（御殿場）「松屋」「不老館」「近江屋」「御殿場館」等

富士山

一等金一圓五十錢　二等金一圓二十錢　三等金一圓　四等金七十錢
（但し半宿泊料は本料の七分を申受く）

○晝食料

一等金七十錢　二等金五十錢　三等金三十錢

▲「箱根底倉」鳥や（委しくは溫泉の卷箱根を見よ）

○宿泊料

特別甲金二圓五十五錢　特別乙金二圓二十錢　一等金一圓三十五錢　二等金一圓十錢
三等金九十錢

▲「宮の下」龍雲館

○宿泊料

金三十錢より金一圓以上いろ〳〵

明治四十三年七月　一日印刷
明治四十三年七月　三日發行

（定價金六拾五錢）

著作者　大濱六郎

發行者　東京市日本橋區榑正町壹番地　服部國太郎

印刷者　東京市京橋區日吉町四番地　渡邊爲藏

印刷所　東京市京橋區日吉町十番地　民友社印刷所

不許複製

賣捌所

東京日本橋區榑正町壹番地　服部書店
東京日本橋區通壹丁目　大倉書店

10
朕部書店發行